

第76回済生会学会
令和5年度済生会総会

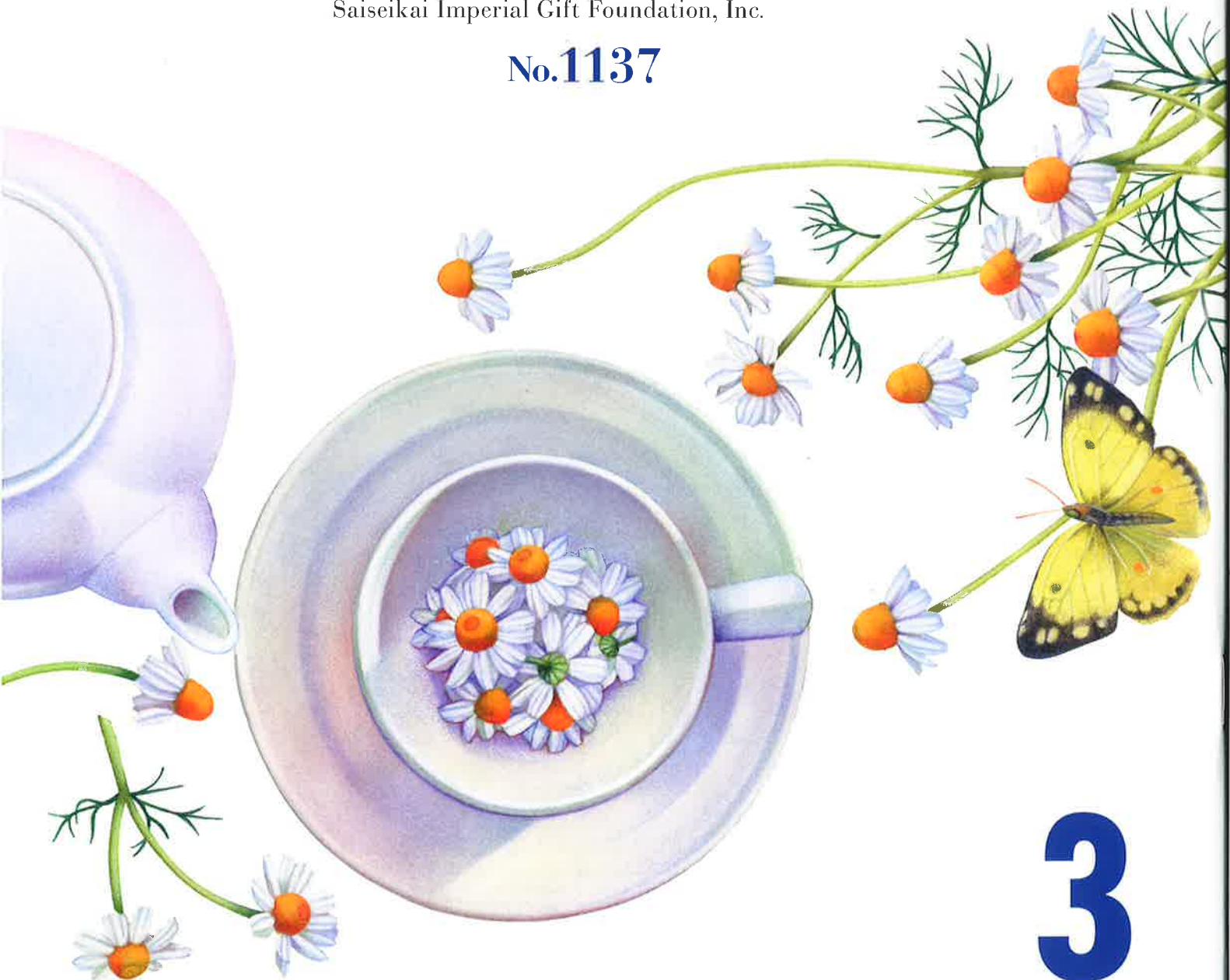
熊本（熊本病院担当）

済生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1137



3

March 2024

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜
財団

済生会

濟生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Sbigeru Sumitani



HUMAの要請で珠州市に派遣された〈大阪〉千里病院職員が撮影

能登半島点描

能登には小さいころから親し
みを持っていた。富山県西部に
位置する高岡市で大学進学前ま
で暮らしていた。能登には地理
的に金沢市よりも高岡市の方が
近い。明治4年の廃藩置県では
富山県の一部が、新設された
「七尾県」に編入されたことが
あった。

能登と高岡市は、経済
や生活関係が大変密接で
ある。被災された方がテ
レビのインタビューで話してい
るのを聞くと、高岡市の方言と
瓜二つである。私の父母が眠る
墓のお寺の住職は、同じ浄土真
宗の珠洲市のお寺から養子にき
て継いでいる。

私の家は建具販売で、主な仕
入れ先は、現在は七尾市に編入
されている田鶴浜町だった。母
は用務で同町に行く時、小学校
入学前の私を連れていってくれ
ることがあった。北陸本線の津
端駅で七尾線に乗り換える。子
どもにとっては窓から見える能
登の風景は、大変新鮮で飽きな
かった。田鶴浜町に着くと、町
全体に木のビュアな香りが漂っ
ていた。木材の町だとすぐに分
かり、震災からの復興需要で活
況を呈していた。子どもにとっ
て楽しい汽車の旅だった。

小説家宮本輝の作品に「幻の
光」がある。輪島市曾々木を舞
台とするが、関西で暮らしてい
た主人公の女性は、夫がなんの
前兆もなく突然自殺をしてしま
い、傷心の日々を過ごす。縁が
あつて4年後に遠く離れた曾々
木に小料理屋を営む男性と再婚
をする。

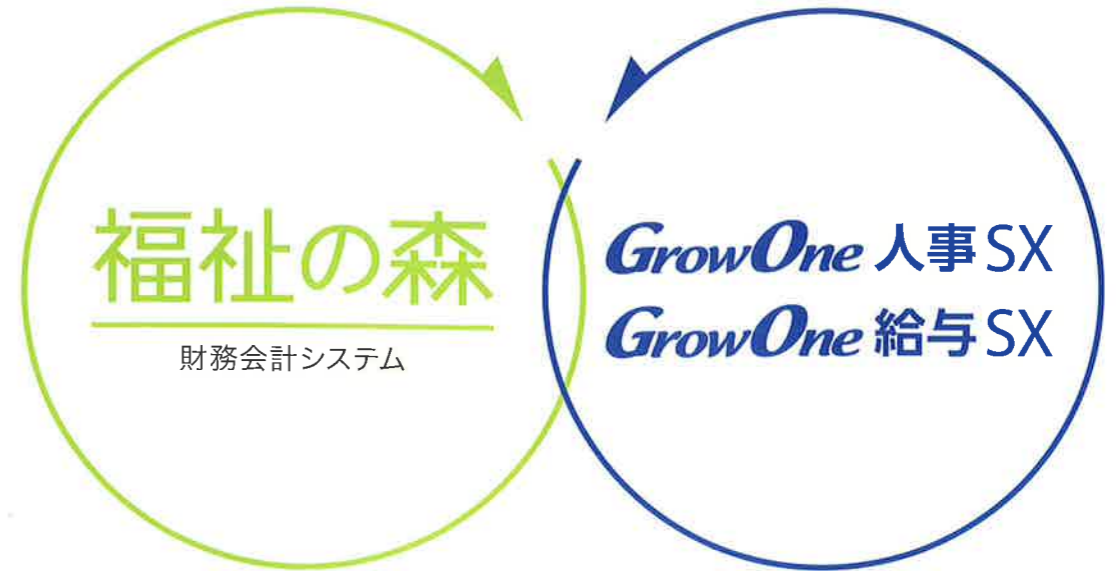
しかし、いつも前夫がなぜ死
なねばならなかったのか頭から
離れない。曾々木の海を見なが
ら考え込む。優しい時もあれば、
荒れた暗い怖い面もある曾々木
の海と人の生死を重ね合わせる。
能登の海は、人を哲学者とする。

被災者支援に続いて次の課題
は、能登半島の復興対策である。
前述のように能登半島は、不利
な条件が多いが、自然と文化の
豊かさがある。何よりも人のや
さしさの文化が根を下ろしてい
る。これらを生かせばきっと効
果的な復興対策は前進する。濟
生会にとってできることがある

能登半島の被災者支援が懸命
に進められている。しかし、65

か、考えていきたい。

人事給与システムが変われば、どうなる。



日立システムズはニッセイコム社製人事給与システムをご提案致します。

<p>GrowOne 人事SX GrowOne 給与SX</p>	<p>特長1 給与計算時のExcel管理を削減! 各種手当や退職金の計算をシステム内で完結することで、給与計算にかかる時間数や計算ミスリスクを削減できます。</p>	<p>特長2 人事情報からの自動計算! 家族情報から扶養手当や年末調整を自動計算し、介護保険等の年齢による控除や手当も自動化できます。</p>	<p>特長3 様々な支給形態に対応! 正職員、非常勤職員や日給・時給など様々な雇用契約に応じた支給形態に対応し、職員情報から自動判定できます。</p>
--	---	--	--

株式会社 日立システムズ

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー
福祉の森担当：福士
フリーダイヤル：0120-055-294

Human * IT

濟生

SAISEI

CONTENTS

MARCH, 2024

第76回濟生会学会 /
令和5年度濟生会総会
熊本(熊本病院担当)

命を支える杖になる — 濟生のこころとアウトリーチ —

総裁 秋篠宮皇嗣殿下のおことば 08 / 潮谷義子
会長ご挨拶 10 / 学会・総会プログラム 11 / 来
賓祝辞・来賓紹介 12 / 2795人に栄えある表彰
18 / 被表彰者代表謝辞 23 / 濟生会令和賞 24
/ 記念市民フォーラム 25 / 学会概況報告 26 /
次期学会長ご挨拶 27 / 初期研修医合同セミナー
28 / 四役会議+臨床研修管理担当者研修会
29 / 学会・総会アルバム 30 / 懇親会・熊本病
院の皆さん、おつかれさまでした 32

続報 災害支援

34

能登半島 続く支援 地震

総合的な災害支援 / DMAT・JMAT派遣 / 看護師
の派遣 / 災害福祉支援・健康被害の予防 / 災害派
遣ナース活動報告

この人 松藤史恩 52

口福につぼん 吉井省一 54

だれでもかんたん てづくりおもちゃ
いまいみさ 56

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL



3月のたよりが聞こえる カモミール

3月から6月に開
花し、白い花弁と黄
色い中心部を持つキク科の小さな
花で、リングに似た甘い香りがす
るカモミール。ハーブティーのほ
かに、古くから冷え症や胃腸障害
などの薬として用いられ、現在で
は不眠や不安、皮膚症状やがん治
療に起因する口内炎に局所的に使
われることもある。

カモミールの花言葉は「苦難の
中の力」「逆境に耐える」「あなたを
癒やします」「仲直り」「親交」な
ど多くある。そんなカモミ
ールは有川浩著作の「図書
館戦争シリーズ」と
いう小説に登場する。
内容は、日本で公
序良俗を乱し人権
を侵害する表現を
取り締まる法律と
して成立した「メ
ディア良化法」が
施行され、超法規
的検閲を実行
する「メデイ
ア良化隊」を、
表現の自由を
守るために図
書館が「図書

隊」として武装化して対抗すると
いうものだ。基本は激甘なラブレ
コメだが(笑)。この図書館のシンボ
ルマークに使われているのがカモ
ミールであり、図書館が厳しい環
境に立ち向かう姿を「苦難の中
の力」という花言葉に重ねている。

このシリーズでは言葉狩りに
ついて語られる場面が多い。特に
「床屋」が言い換えを推奨される
言葉に含まれることには驚いた。
当時、中学生で友人と「今までは
床屋だったけど、今回からは美容
院で髪の毛切ったんだ」なんて
いう会話もあった。床屋の由来が
江戸時代、髪結いが板や竹を組ん
で簡易な床を張っただけである床
店で仕事をしていただけから日銭
稼ぎや召し使いの職業のイメージ
があるからだとか。なのでメデイ
アでは文脈によって「理髪業」や
「理容師」といった言い換えがさ
れている。

不快に感じる人がいるならばも
ちろん言い換える必要があるのだ
が、床屋として誇りを持って働い
ている人にとってはどうなのか。
そんなことを考えながら、カモ
ミールティーを飲んで、いったん
頭を休ませよう。
(N)

表紙のことば

白い花びらを着た天使

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

甘い香りを放ちながら、白い花びらの中に昆虫たちの
ためのクッションのように黄色い花托を膨らませている。
古代エジプト時代に太陽神に捧げられたと言われる
メディカルハーブ。今も愛されるジャーマンカモミ

ールです。清潔で柔らかく優しい印象と花言葉の
ひとつにもある強さ「逆境から生まれる力」に、医
療に関わる方々の姿が重なります。私も強く優し
く癒やす力の恵みを受けたひとりです。



命を支える杖になる ～済生のこころと アウトリーチ～

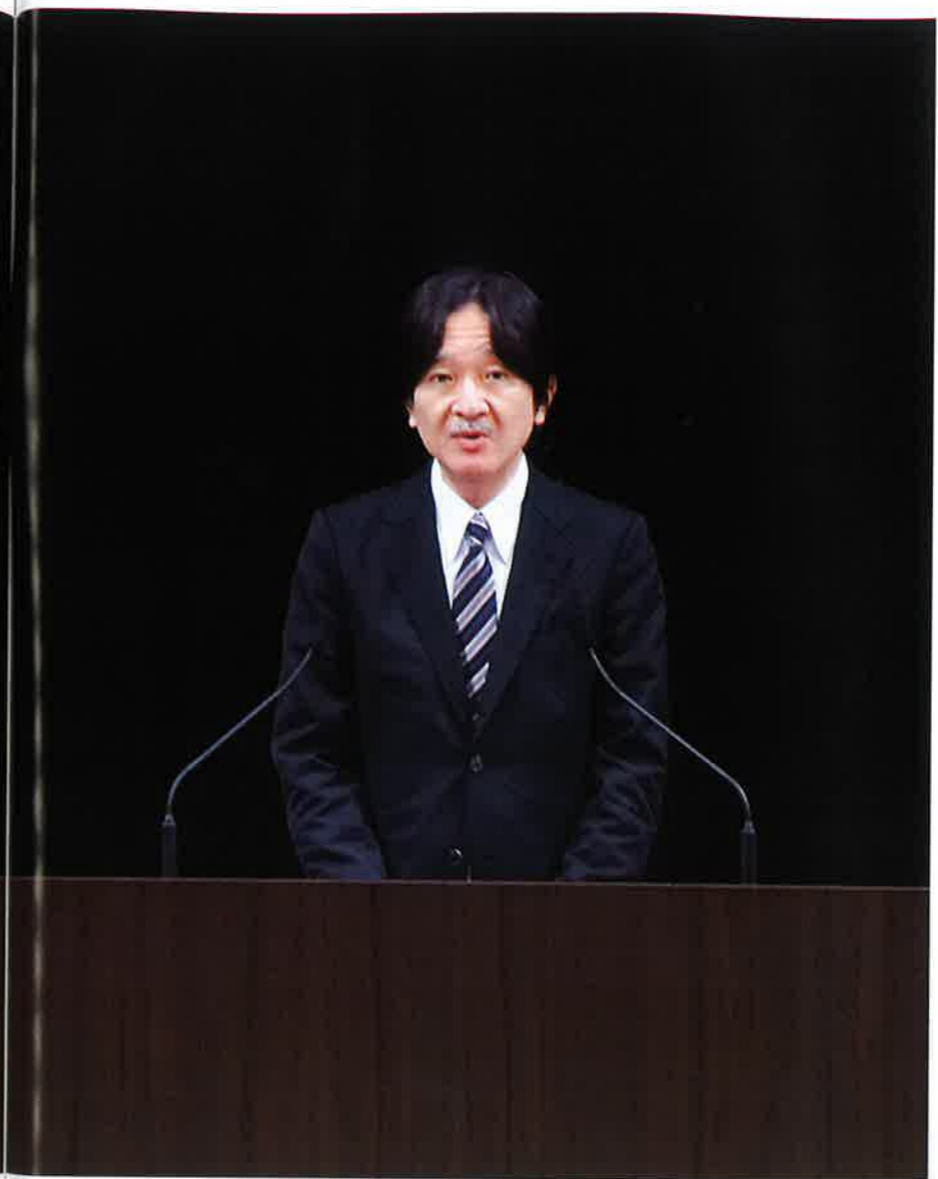


第76回済生会学会・令和5年度済生会総会が1月27・28日、熊本城ホールで開かれた。熊本での開催は45年ぶり。「命を支える杖になる ～済生のこころとアウトリーチ～」をテーマに全国から約2700人が参加。学会・総会に合わせ、四役会議、臨床研修管理担当者研修会、初期研修医のための合同セミナーなども開催された。

戦国武将・加藤清正が慶長12年（1607）に築城した熊本城。反りのある石垣は「武者返し」と呼ばれています。平成28年（2016）年の熊本地震で建物に大きな被害を受けましたが、令和3年（2021）春に天守閣の復旧が完了しました。城の復旧作業は現在も継続しています。

総裁

秋篠宮皇嗣殿下



はじめに、元日に石川県能登地方を震央とする最大震度7の地震が発生し、それに伴う建物の倒壊や火災、津波による浸水などにより、石川県を中心に甚大な被害が生じております。亡くなられた方々に深く哀悼の意を表します。

このたびの済生会学会と総会には、被災県にある金沢病院からも出席されていると伺っていますが、皆様の中には、震災による影響を受けたり、身近な人が被災されたりした方もおられるのではないかと思います。ここにお見舞いを申し上げますとともに、被災地の復旧・復興を心より願っております。

また、今回の災害におきまして、済生会は、要請により発災翌日からDMATの派遣を開始いたしました。現地では困難な状況の中、医療関係者をはじめ多くの本会職員が献身的な尽力をされており、これら関係者に改めて敬意を表します。

本日、「令和5年度済生会総会」が、来賓ならびに全国の済生会支部および施設から多数の参加を得て、ここ熊

本市において開催されますことは誠に意義深いことでもあります。

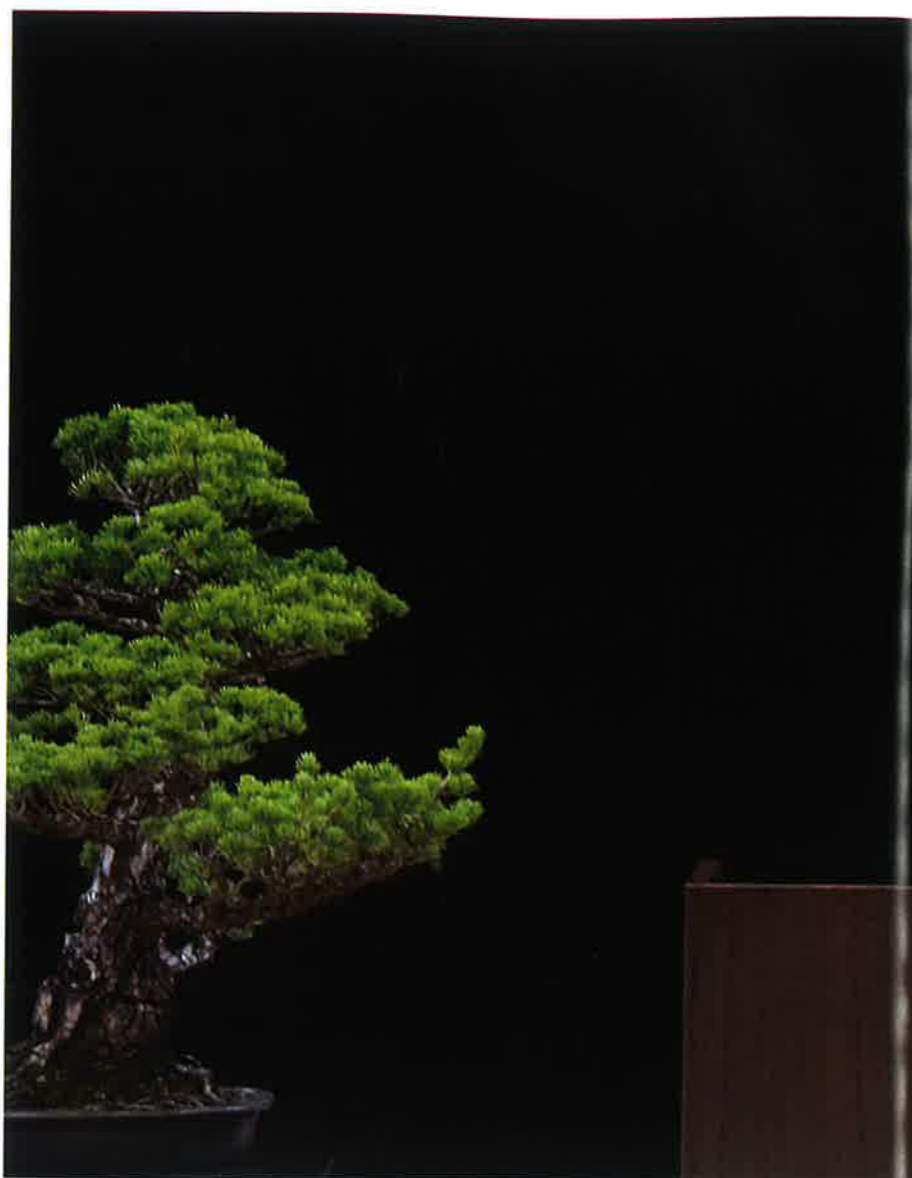
済生会は、明治44年、1911年に明治天皇の済生勅語により創立されました。爾来、本会を支えてこられた先人、そして皆様方のためなめ努力により、今では日本最大の医療・福祉団体となり、日本の医療と福祉の場を支えております。

熊本県内では、熊本病院、みすみ病院が公的医療機関として地域に必要な医療を提供しているほか、熊本福祉センターでは障がい福祉サービスを提供するなど、各施設の職員は昼夜を問わず懸命に医療と福祉の推進に取り組んでおられます。

さて、昨年9月のことになりましたが、私は日本とベトナム社会主義共和国との外交関係樹立50周年にあたり、ベトナムを訪問しました。その折りに、済生会の病院で研修を受けたダナンがん病院の医師11名と懇談する機会を得ましたが、その中で、済生会の病院で学んだ医療技術をダナンがん病院で活用し、医療サービスの向上に役立てているとの話を聞くことができ、大変嬉しく感

じました。また、COVID-19のパンデミックのため、現在、中断している研修について、早急な再開を期待しているとの話もあり、済生会が果たしている国際的な役割についても強く感じた一時でした。COVID-19も5類感染症に移行し、感染症と共存する時代に入りました。このような歴史的な転換期において、済生会が担う事柄は多岐にわたることと思います。「施薬救療」の精神の下、全ての役割職員が一丸となって地域住民の健康と暮らしを支え、より一層大きな役割を果たしていくことを希望いたします。

おわりに、本日表彰を受けられる方々をはじめ、これまで済生会の活動を支えてこられた多くの関係者の多年にわたるご尽力に対し、心より敬意と感謝の意を表するとともに、皆様が今後とも健康に留意されながら活躍されることを祈念し、総会に寄せる言葉といたします。



「命を支える杖になる ～済生のこころとアウトリーチ～」

会場：熊本城ホール、熊本市市民会館

時間	行事	会場	懇親会会場
10:30～13:00	経営管理会議	ホテル日航熊本 5F [阿蘇]	
14:10～15:00	四役連絡会議	ホテル日航熊本 5F [阿蘇]	
四役会議			
15:30～17:30	病院長会議	ホテル日航熊本 5F [阿蘇]	5F [天草]
15:30～17:30	事務(部)長会議	熊本ホテルキャッスル 2F [キャッスルホール]	B1F [クリスタルホール]
16:00～18:00	看護部長会議	ザ・ニューホテル熊本 2F [おしどりの間]	2F [おしどりの間]
16:00～18:20	福祉施設長会議 (分科会)	ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ 1F [若草]、2F [ストリングス]、[アンダンテ]	6F [アルシェ]
15:30～17:30	薬剤部長会議	ホテル日航熊本 7F [ガーデンバンケット]	
研修会・セミナー			
10:00～12:30	臨床研修管理担当者研修会	(熊本城ホール) 3F 大会議室A4	
13:30～17:30	初期研修医のための合同セミナー	(熊本城ホール) 1F 展示ホール	

時間	行事	会場 [熊本城ホール]	会場 [熊本市市民会館]
7:00～14:00	参加受付 (総合受付)	2F エントランスロビー	
7:00～14:30	PC受付	M2F シビックホールホワイエ	2F 主催者控室
8:50～8:55	開会式	4F メインホール	
8:55～9:25	基調講演	4F メインホール	
9:25～10:15	特別講演	4F メインホール	
9:25～11:55	シンポジウム1	M2F シビックホール	
	シンポジウム2	3F 大会議室A1-2	
10:25～11:55	パネルディスカッション1	3F 大会議室A3	
8:20～8:35	一般演題 (口演発表)	3F 大会議室A3・A4、 中会議室B1-3・E1-2・D1-2・C1-2、 小会議室H1-2・G1-2	2F 大会議室 (小ホール)
10:25～11:55			
13:05～15:23			
9:25～11:50	一般演題 (デジタルポスター発表)	1F 展示ホール	
12:05～12:55	ランチョンセミナー ※事前登録制	3F 大会議室A1-2・A3・A4、中会議室B1-3・E1-2・D1-2・C1-2、 小会議室H1-2・G1-2 (F1-2) M2F シビックホール	2F 大会議室 (小ホール)
13:05～14:35	シンポジウム3	3F 大会議室A1-2	
13:53～15:05	パネルディスカッション2	3F 中会議室B1-3	
14:42～15:30	— 総会会場へ移動 —		
15:30～16:30	総会	4F メインホール	
	※中継会場	3F 大会議室A1-2・A3・A4、中会議室B1-3	
13:30～17:30	— 懇親会会場へ移動 —		
17:30～19:30	懇親会	1F 展示ホール	
	※中継会場	M2F シビックホール、ラソールガーデン熊本 6F グラシエント	

令和5年度済生会総会式次第		令和6年1月28日(日) 4階メインホール
一、開式	黙とう	国歌斉唱
一、来賓紹介	会長挨拶	おことば
一、表彰	功勞による表彰	(代理)厚生労働省社会・援護局長 朝川知昭
一、来賓紹介	名譽会員	大阪府済生会中津看護専門学校長 戸田常紀
	同	済生会福岡総合病院名誉院長 岡留健一郎
	同	済生会飯塚嘉穂病院院長 關 紳一
	同	済生会飯塚嘉穂病院院長 迫 康博
	同	岡山済生会総合病院院長 塩出 純二
	同	済生会奈良病院看護部長 杉下 薫
	同	永年勤続表彰
	同	30年以上 済生会はやぶさ保育園 松田 英彦
	同	20年以上 乳児院はやぶさ施設長 三角 隆彦
	同	10年以上 済生会横浜市東部病院院長 濱中 浩孝
	同	済生会中津病院事務部長 済生会宇都宮病院 岡留健一郎
	同	済生会令和賞
	同	代表謝辞 済生会福岡総合病院名誉院長 岡留健一郎
	同	被表彰者 済生会熊本病院院長 中尾浩一
	同	学會概況報告 第76回済生会学会会長 済生会熊本病院院長 中尾浩一
	同	感謝状の贈呈 第76回済生会学会会長 済生会熊本病院院長 中尾浩一
	同	次期学会長の委嘱ならびに挨拶 第77回済生会学会会長 済生会松山病院院長 宮岡弘明
	同	閉式



会長挨拶

社会の弱者に目を向け対応していく

潮谷義子

ご挨拶の冒頭にあたり、このたびの能登半島地震により被害にあわれた皆様方に謹んでお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。また、患者及び被災者の受け入れ、DMAT隊、看護師派遣など、関係機関の方々により迅速に対応いただき、まことにありがとうございます。

本日、総裁・秋篠宮皇嗣殿下のご臨席の下、ご来賓の皆様とともにご列席をいただき、令和5年度済生会総会を開催できましたことに、心からお礼を申し上げます。

ここ熊本での総会開催は平成28年の熊本地震、令和2年、新型コロナウイルス感染症の流行により延期、中止を余儀なくされました。これらの難局を乗り越えて、実に45年ぶりの開催になります。まことに感慨深く感じるところでございます。

さて、本会は明治44年2月11日、「もしそれ無告の窮民にして医薬給せず、日露戦争後の窮乏の中で自らの苦しみを他人に告げる術を知らず、病に倒れ、死を待つのみの人々に施薬救療を与え、生きる道を講じたい」との明治天皇の済生勅語を受けて事業が開始されました。

以後、今日まで110年以上の長きにわたって事業を継続し、済生会は医療・保健・福祉等の多種多様な事業の展開、働く人は6万4000人を有する日本最大の社会福祉法人に成長してまいりました。

しかしその一方で、社会情勢の急速な変化による社会の分断、個人や世帯が抱えている問題も複雑化するなど、その解決は格段に困難なものとなっております。本会の役割はますます重要になっております。そこに共通して流れている理念は、社会の弱者に目を向け対応していくということです。

本日、栄えある表彰をお受けになられる方々には、優れた功績と長年にわたるご努力に対し、心から感謝と敬意を表しますとともに、今後とも済生会の発展のため、一層の力を添えを賜りますようお願いいたします。

最後になりますが、本総会の開催にあたりまして多大なご支援、ご指導いただきました関係各位に対し衷心より御礼を申し上げますとともに、本日ご列席くださいましたご来賓各位のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。私の挨拶といたします。

済生会の使命を引き継ぎ 「いのち」に寄り添った 活動を

厚生労働大臣

武見敬三

(代読) 厚生労働省
社会・援護局長 朝川知昭



本日ここに秋篠宮皇嗣殿下のご臨席を仰ぎ、関係者のご尽力の下、社会福祉法人臨済生会総会が開催されますことを心からお慶び申し上げます。

はじめに1月1日に発生した能登半島地震によってお亡くなりになられた方々に心からお悔やみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々にお見舞いを申し上げます。

厚生労働省としても、1月1日に厚生労働省災害対策本部を設置し、被害状況の把握に努めるとともに、官民が連携し、医療・福祉・水道等の分野で被災地の支援に全力で取り組んでおります。

済生会におかれましても、震災直後より各地の拠点から災害派遣医療チーム、DMATを派遣し、被災者の診療、救護を行なうなど、献身的に活動していただいております。皆様方の尊いご尽力に対し、心からの敬意と感謝を申し上げます。

済生会は生活苦で医療を受けることができずに困っている人たちを施薬救療によって救おうという明治天皇の済生勅語をきっかけに、明治44年に設立されて以来、1世紀以上にわたり、地域医療や福祉の拠点として、恵まれない方々への支援に大きく貢献してこられました。

このような精神に基づき、生活に困窮する方々に対して無料または低額な料金で診療を行なう無料低額診療事業、医療・福祉にアクセスできない方々に対して巡回診療等を行なう「なでしこプラン」など、常に時代のニーズに応じた事業を展開してこられたことに深く敬意を表します。

近年、わが国では少子高齢化や人口減少、単身世帯の増加といった社会構造の変化や、孤独孤立といった新しい政策課題の顕在化により、福祉ニーズの複雑化、複合化が進んでいます。これらのニーズに対し、身近

な地域で包括的に対応できる体制を実現するため、厚生労働省では、地域住民がともに支え合い、地域・暮らし・生きがいとともにつくっていく地域共生社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

その実現に向けて、設立以来、医療・福祉などの広い分野で「いのち」に寄り添った活動を積み重ねてこられた済生会の皆様には、今後とも、その一翼を担っていただければと強く願っております。

今後も引き続き済生会の使命を大切に引き継ぎ、その使命を果たすために、長い歴史と実践で培われた力を大いに發揮していただくことを心より期待しております。

結びに、本日お集まりの皆様のご健勝と社会福祉法人臨済生会の今後ますますのご発展を心から祈念いたしまして、私からの挨拶といたします。

学会総会の成果を 全国各地、住民の 健康維持のために

熊本県知事 蒲島郁夫



本日、令和5年度済生会総会が社会福祉法人臨済生会総裁・秋篠宮皇嗣殿下ご臨席の下、盛大に開催されましたことを心よりお慶び申し上げます。また全国各地からここ熊本においでくださりました皆さまを心から歓迎

を申し上げます。本日の済生会学会総会の開催にあたり、中尾院長様をはじめ

準備にご尽力されました皆様方に深く敬意を表します。

本年は元日からの能登半島地震により、非常に大きな被害が発生しております。そのような中、貴会におかれましては日本最大の社会福祉法人としてさまざまな支援にご尽力いただいております。大変心強く感じております。

皆様ご承知のとおり、本県も熊本地震と令和2年8月豪雨災害という二度の大災害と新型コロナウイルス感染症と、三つの困難に直面いたしました。私はこれらの三つの困難に対し、逆境の中にこそ夢があるという信念の下、創造的復興を全力で進めてまいりました。

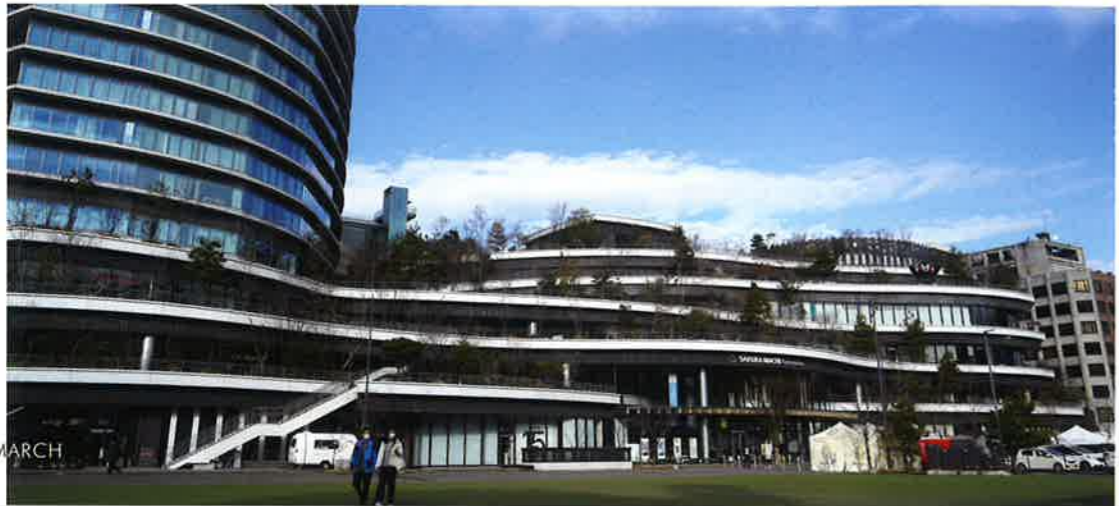
その推進にはさまざまな局面で医療・保健・福祉、すべての対応が強く必要とされたところです。貴会からは多くの力添えを賜りました。この場をお借りして感謝を申し上げます。

高齢化の進展に伴い、地域における医療・保健・福祉の中心

として貴会に求められる役割は今後ますます大きくなってまいります。これからも元気で住みやすい熊本県の実現に向けてご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。少し個人的なことを申し上げますと、本日、1月28日は私の77回目の誕生日になります。この年齢まで私が心身とも健康を維持できているのは保健・医療を担う皆様方のおかげであると改めて感謝しております。

今回の学会総会において将来を見据えた熱心な議論が行なわれ、その成果が本県のみならず全国各地における住民の健康維持につながりますことを強く期待いたします。

最後になりますが、本学会総会の成功と、本日ご参加の皆様は今後ますますのご活躍とご多幸を祈念申し上げます。私からの挨拶といたします。



救急・災害・ 新興感染症 健康危機管理体制の強化に取り組む

熊本市長

大西一史



舞いを申し上げます。熊本地震を経験した本市におきましても、発災直後から現地に職員等を派遣しており、引き続き全力で被災地の支援に取り組んでまいり所存です。

本日は秋篠宮皇嗣殿下のご臨席の下、令和5年度済生会総会が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げますとともに、多大なるご功績により栄えある表彰を受けられる皆様方に、心からお祝い申し上げます。全国各地からお越しいただいた皆様方を、熊本市民を代表いたしまして心から歓迎を申し上げます。

社会福祉法人済生会におか

れましては、明治44年の創立以来、100年以上の長きにわたり、全国の病院や福祉施設などにおいて、医療・保健・福祉の充実と発展のために多大なるご貢献を賜り厚く御礼申し上げます。

とりわけこの熊本におきましても、三次救急として熊本の医療体制に欠かすことのできない重要な役割を担っていただいておりますほか、ダビンチをはじめとする高度医療技術の実践や優れた医療従事者の育成等による質の高い医療サービスの提供など、地域医療体制の確保にご尽力をいただいておりますことに心から敬意を表する次第です。

近年の超高齢社会の急速な進展に伴い、医療・保健・福祉を取り巻く環境が複雑かつ多様化する中、医療・介護等の連携による持続可能で質の高い地域医療サービスの提供に向け、各種

施策を着実に進めていくことがより一層重要となるものと考えております。

本市としましては、今後とも貴会をはじめとする医療関係者の皆様と連携をしながら、救急医療や災害医療の体制整備をはじめ、新興感染症等に備えた健康危機管理体制の強化等に取り組んでまいり所存です。

このような取り組みを着実に進め、本市が目指すまちの姿である「誰もが憧れる上質な生活都市くまもと」の実現に向け、全力で邁進してまいりますので、皆様方には、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、済生会のみならずのご発展とお集まりの皆様方からなるご健勝とご活躍を祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

はじめに元日に発生いたしました能登半島地震により、お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災されたすべての皆様にご心からお見

済生会学会・総会の 成果を祈念する



小川久雄

熊本大学長

本日にここに秋篠宮皇嗣殿下のご臨席の下に、社会福祉法人済生会の令和5年度総会・第76回学会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

済生会は明治44年、1911年2月11日に明治天皇の済生勅語を受けて事業を開始され、今日まで110年を越す長きにわたり医療・保健・福祉

などの事業を継続されてきました。本学会は熊本で開催されるのは45年ぶりと同っております。

1月1日の能登半島地震では多くの方が犠牲になり、甚大な被害を受けいまなお苦しい状況が続いております。2016年の熊本地震では大きな被害を受け、秋篠宮皇嗣殿下も済生会熊本病院の被災状況をご覧いただき、お力をいただいたのをはじめ、多くの方のご支援で復興が順調に行なわれてきました。

熊本大学のシンボルである明治22年、1889年に建てられた国重要文化財、五高記念館も2021年末に復旧工事が完了いたしました。いまだ熊本城をはじめ復興途上の部分もごさいますが、このような大きな学会を開催できるところまでになりました。COVID-19の感染拡大も落ち着きを見えています。本年から新千円札の肖像となります日本医学の父で感染症学の巨星・北里柴三郎博士は18

53年、熊本県小国町にお生まれになり、熊本大学医学部の前身である古城医学学校でオランダ人部員マンズフェルトに師事し、医学への道を志されました。

さらに北里博士は済生会創立時の医務主幹であり、芝病院、現在の東京都済生会中央病院の初代院長を務められました。2022年から済生会会長に就任されました潮谷義子様は本日、ご出席の蒲島郁夫知事の前の熊本県知事を務められました。そして第76回済生会学会を主宰されます中尾浩一済生会熊本病院病院長は私と同じ熊本大学循環器内科の出身で40年来の仲間であり、循環器内科の後援会会長も務めておられます。その関係で本日、本総会に呼んでいただきましたと思っております。

令和5年度済生会総会・第76回済生会学会が大きな成果を上げられますことを祈念して、私の祝辞とさせていただきます。本日はまことにおめでとございます。



今後も

熊本大学病院長

馬場秀夫

地域医療の最前線で活躍を



尽力、ご功績により栄えある表彰を受けられます皆様方に心よりお祝い申し上げます。

近年、少子高齢化が急速に進むわが国におきまして、地域医療における医療連携相互体制、また医療と福祉の連携強化が一層求められている状況でございます。医学・医療の進歩は日進月歩であり、高度で多様化する医療現場においては、4月より始まる医師の働き方改革を目前に控え、医療機関相互の役割分担がますます重要になってきております。

熊本大学病院は県内唯一の特定機能病院として地域医療の最後の砦としての責務を担っておりますが、県内のすべての医療機関との連携・協力体制の構築を進めているところでございます。中でも済生会熊本病院との協力関係は最も重要であると認識しているところでです。

済生会熊本病院は救急医療、低侵襲治療、デジタル化、メデイカルパスの推進など、常に全国の済生会病院の中でも先進的な取り組みで地域医療に對してきわめて大きな貢献をされてこられました。

3年半に及ぶ新型コロナウイルス感染症蔓延時においても、救急患者を受け入れる一方で新型コロナウイルス感染症に對対応型コロナウイルス感染症に對対応いただき、また今回の能登半島地震に對しても熊本県からのDMATの第1陣を派遣していただくなど、地域における医療の中心的な役割を担っておられます。

今回、第76回済生会学会が中尾浩一会長の下、「WAND OF LIFE」命を支える杖になる」というテーマで大変盛會裡に開催されましたが、今後もこの心を忘れることなく、地域医療の最前線でご活躍いただくことを切に願っております。

結びに、本日ご臨席の皆様方のご健勝とご多幸、全国の済生会病院のさらなる発展を祈念いたします。私の挨拶とさせていただきます。



来賓紹介

司会 ご来賓の皆様をご紹介させていただきます。熊本県医師会会長・福田桐様。熊本市医師

会会長・園田寛様、本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。うございます。



左から朝川氏、蒲島氏、福田氏、大西氏、園田氏、小川氏、馬場氏



2795人に栄えある表彰

総会では、本会の発展に尽くされた方々の表彰が行われた。名誉会員2人、有功会員2人、功労会員3人、功労会員の看護職に授けられる寛水賞5人、30年以上勤続404人、20年以上勤続759人、10年以上勤続1620人の

合計2795人。名誉会員と有功会員には秋篠宮皇嗣殿下から表彰状を授与されたほか、功労会員、寛水賞、各永年勤続の代表者には潮谷義子会長から表彰状が手渡された。被表彰者を代表して岡留氏が謝辞を述べた。

有功会員



迫 康博

〈福岡〉
飯塚嘉穂病院
院長



關 紳一

〈埼玉〉
鴻巣病院
院長



迫氏



關氏

名誉会員



岡留健一郎

福岡総合病院 名誉院長
福岡医療福祉センター 総長



戸田常紀

〈大阪〉
中津看護専門学校
学校長



岡留氏



戸田氏

寛水賞



横田佳子
熊本病院
看護師長



渡部佐枝子
〈鳥取〉介護老人保健施設はまかせ
看護師長



杉下 薫
奈良病院
看護部長



三宅和代
岡山済生会看護専門学校
教務主任



西村栄実
〈鳥取〉境港総合病院
副看護部長



杉下氏

功労会員



塩出純二
岡山済生会総合病院 院長
岡山済生会看護専門学校 学校長



野田八嗣
富山県済生会
支部長



青石博文
〈和歌山〉有田病院
技監兼
リハビリテーション科技師長



塩出氏

永年勤続表彰

30年以上勤続（404人）

松田英彦

〈山形〉はやぶさ保育園・乳児院はやぶさ 施設長

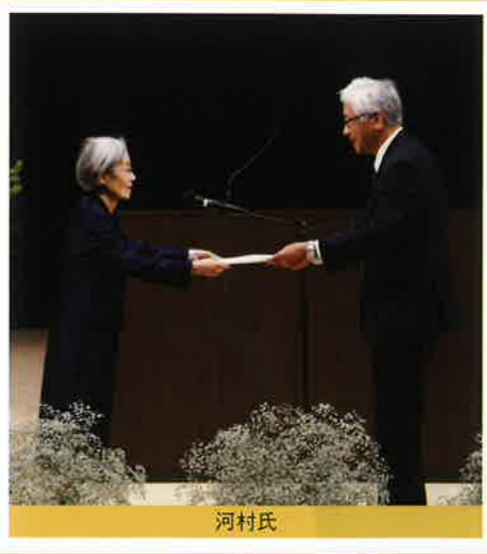


松田氏

20年以上勤続（759人）

三角隆彦

〈神奈川〉横浜市東部病院 院長



河村氏

10年以上勤続（1620人）

濱中浩孝

〈大阪〉中津病院 事務部長



池田氏

被表彰者代表謝辞

人口減少・高齢社会に伴う諸課題 済生会が先駆的役割を

福岡総合病院名誉院長
福岡医療福祉センター総長

岡留健一郎

本日は総裁・秋篠宮皇嗣殿下
ならびにご来賓のご臨席の下、
このような表彰の荣誉に浴しま
したことはまことに身に余る光



栄であり、一同感激の至りでございませう。

まずもって今回の能登半島地震の被害にあわれた方々に見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興を願っています。

私は31年前、済生会福岡総合病院に就職いたしました。以後、病院職員の皆様のご理解とご協力、そして済生会本部、福岡県支部のご指導を得ながら、福岡総合病院は福岡・糸島二次医療圏における高度急性期病院としてゆるぎない立場を確立してまいりました。これまでの多くの病院職員の皆様のご協力に厚く感謝申し上げます。

済生会は日本最大の医療・福祉の社会福祉団体として地域の発展に貢献してまいりました。14年前、済生会創立100周年を機に、済生会第四次基本問題委員会が設立され、「済生会の次の100年に向けて」をメインテーマとして、私は委員長としてその報告書作成に携わらせていただきました。済生会

職員だけでなく、広く外部、社会に向けて本会の理念・役割と進むべき方向を基本指針として掲げ、その中で済生会の推進すべき事業として、①生活困窮者への援助の積極的推進②地域医療への貢献③総合的な医療・福祉サービスの提供があげられました。

生活困窮者援助については、済生会は社会の最終ラインを守る使命と覚悟を持って、無料低額診療や「なでしこプラン」を広く展開しているところです。地域医療への貢献は、全国の地域医療構想調整会議での結果を踏まえ、各医療機関の特徴的機能を元に公的医療機関として地域医療の発展に寄与しています。

三つ目の総合的な医療・福祉サービスの提供では、日本は今、生産年齢人口の減少や高齢化社会の進展など大きな問題をかかえています。この領域こそ済生会が中核となりリーダーシップを図り、他の医療機関・福祉施設と連携し日本の先駆的役割

割を担うべきであると考えます。しかしながら国内にはまだまだ多くの困難な問題が残っています。東北大地震や熊本地震、今回の能登半島地震など、多発する想定を超えた自然災害、長きにわたる経済成長減速に伴う貧富の差の拡大や障がい者、孤独な高齢者、若年者層に見られる孤立問題などです。これらの問題に対処するために済生会は事業を通じ、住民・行政・他の団体や組織と連携し取り組み、一人も取り残さない、「ソーシヤルインクルージョン」を理念とした新しいまちづくりへの貢献も今後の済生会が取り組むべき重要な方向性と考えます。

私たちは済生会人として、これからも施薬救療の精神を忘れずに、地域の医療・介護・福祉・保健の発展に寄与し、国民の皆さんの幸せのために貢献し続けていくことをお誓いしてお礼の言葉とさせていただきます。本日はまことにありがとうございます。

済生会令和賞

栃木・宇都宮病院の「つなサポ」 不安や困難を抱え 孤立する女性を支援

患者・利用者に対するサービスの質の向上や経営の改善、地域貢献など、職員が一丸となって取り組んでいる施設を年1回、顕彰する「済生会令和賞」に、(栃木)宇都宮病院が選ばれ、炭谷茂理理事長に記念の盾が贈られた。福祉施設が贈られた。

設は該当がなかった。宇都宮病院は一人で不安や悩みを抱える女性に対して、社会との絆やつながりを回復することができるよう、宇都宮病院内に専用の相談窓口「つなサポ相談室」を設置。幅広く女性を支援している。

コロナ禍では食料や生理用品の配布活動をする中で、利用者から子育てや介護など様々な悩みが寄せられた。同院は地域の医療機関やNPOと連携してハローワークや商業施設にも相談窓口を設置、アウトリーチ型の支援も実施している。

これらの活動が認められ、同院は宇都宮市の「つながりサポート女性支援事業」の受託につながり、令和5年1月には栃木県の「地域で輝く福祉の力大賞」最優秀賞を受賞した。



稲見地域連携課長(左)と野間院長



地元FMラジオに出演して「つなサポ相談室」を紹介する稲見氏



済生会学会 記念市民 フォーラム

「コトバの処方せん」 言葉との向き合い方を考える

熊本病院が第76回済生会学会の開催を記念した市民フォーラムを1月20日に熊本城ホールで開き、約2000人が参加した。

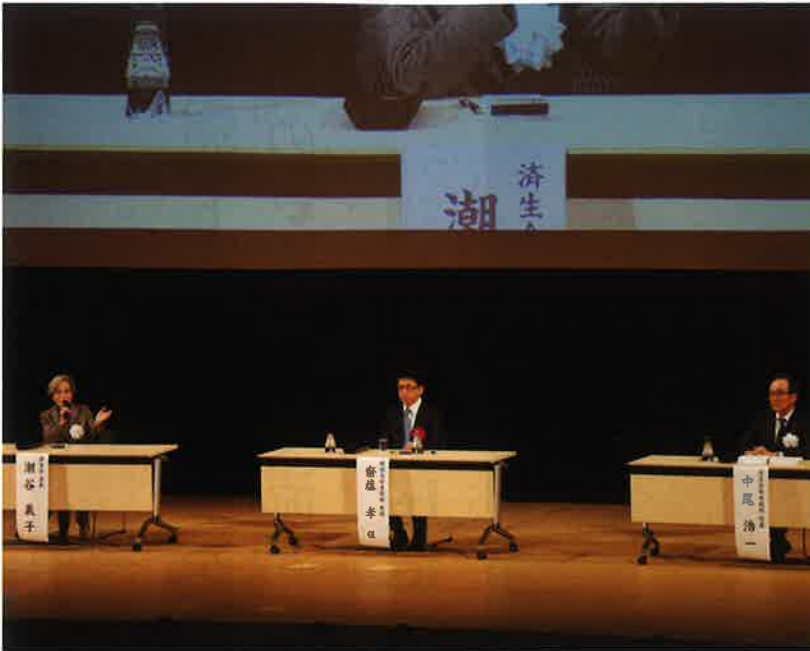


齋藤氏

「コトバの処方せん」をテーマに行なわれ、潮谷義子済生会会長と熊本病院の中尾浩一院長が開会挨拶、講演では明治大学教授の齋藤孝氏が未来を創る言葉の力について話した。

齋藤氏は「コミュニケーションとは『意味』と『感情』を伝えること。言葉で情報を伝え、感情を伴った伝え方が大切」などと言及した。

その後、齋藤氏、潮谷氏、中尾氏が言葉のリーダーシップについて語り、「リー



潮谷会長



中尾院長



具嶋部長

ダートとはポジティブな目標を言葉にして仲間を引き付ける存在であること」「リーダーは誰もがリーダーシップを発揮できるような環境をつくるリーダーシップを発揮することが重要」と訴えた。

参加者からの「子どもが失敗しても立ち上がる、前向きに生きられるような言葉は何か」という質問に対して3氏は、「子どもが良い行動をしている方向に向かったときは大人が適切にほめる」「兄弟で横比べをした言葉がけではなく、その子独自を見つめることが大切」などと答えた。

最後に熊本病院の具嶋泰弘教育研究部長が挨拶をして閉会した。

学会概況報告

一般演題617題、近年最多 済生会のさらなる交流と連帯の一助を願う

第76回済生会学会
熊本病院 院長

中尾浩一



報告に先立ちまして、能登半島地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。当院からはこれまでに熊本地震を経験した13人のスタッフが災害支援に入り、いまこの瞬間も活動しております。被災地の一日も

早い復旧を祈りたいと思います。本日は秋篠宮皇嗣殿下のご臨席を賜り、第76回済生会学会、令和5年度済生会総会を当地、熊本で45年ぶりに開催できましたことをまことに光栄に存じます。

本学会のテーマは北里柴三郎博士の言葉にちなみ、「命を支える杖になる 済生のこころとアウトリーチ」といたしました。命の杖となり、施薬救療という済生の心で人々に手を差し伸べることが次世代を育てたい、テーマにはそのような期待を込めています。

全国から約2700人の皆様にご参加いただき、基調講演、特別講演、三つのシンポジウム、二つのパネルディスカッション、一般演題、そして11のランチョンセミナーを行いました。

基調講演は潮谷義子会長に「済生会への大いなる期待―歴史に学ぶ、生命に向き合う―」と題した訓話をいただきました。特別講演では北里英郎先生に「感染症の歴史と北里柴三郎の戦い」と題した、博士の熱と誠、終始一貫の生涯をお話しいただきました。お二人の講演を通して済生会の歴史に触れ、私たちの原点を顧みる大変貴重な機会になったと思います。

三つのシンポジウムでは第8次医療計画と地域医療構想、働き方改革、そして持続可能な共生社会をテーマに講演と質疑が行なわれました。

いずれのテーマもわが国の少子高齢化と働き手の減少を背景としていますが、直面する難題にどう向き合うべきか、さまざまなヒントがちりばめられたシンポジウムになったと思います。時間をかけて丁寧な準備をしてくださった座長、演者の皆様に心より感謝申し上げます。

一般演題では講演が263題、デジタルポスター341題など、合計で617題と近

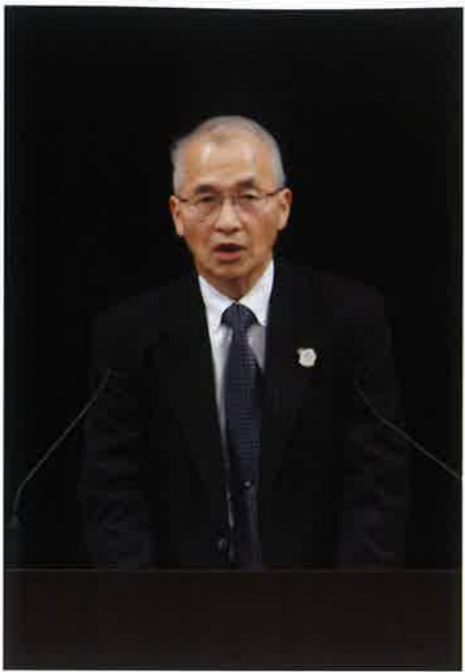
年で最多の発表があり、活発な質疑応答をいただきました。

学会記念イベントとして市民フォーラム「コトバの処方せん」を明治大学の齋藤孝先生をお招きし開催しました。約2000人の市民の皆さんとともに、言葉の力を考える機会となりました。

皆様のご協力の下、第76回済生会学会を無事に終えることができました。ご臨席いただきました秋篠宮皇嗣殿下、潮谷会長、炭谷理事長をはじめご来賓の皆様、ご協力いただいた全国の済生会職員の皆様に、衷心より御礼申し上げます。最後に手前味噌ですが学会運営に奔走してくれた熊本病院のすばらしいスタッフに心から感謝したいと思えます。

このたびの学会が全国済生会のさらなる交流と連帯の一助となることを願い、概況報告いたします。どうもありがとうございました。

次期学会長の挨拶



「人材確保・人財育成でSDGs」 2月15日、16日 愛媛・松山市で

第77回済生会学会
松山病院 院長

宮岡弘明

最初に能登半島地震で被災された方にお見舞い申し上げます。能登半島地震で被災された方のお一人が、松山にお住まいの親戚を頼って受け入れ要望がありましたので、松山市の姫原特別老人ホームに入っていたべくことになりました。ただいま第77回

済生会学会長の委嘱状を頂戴しました松山病院の宮岡弘明でございます。歴史と伝統のある本学会を担わせていただきますのはまことに光栄なことであり、身の引き締まる思いです。

会期は令和7年2月15日、16日。松山市道後地区にある愛媛県県民文化会館をメイン会場に開催します。愛媛県の開催は平成5年の今治病院、平成14年の西条病院に次いで3回目の開催となります。

学会のテーマは「人材確保・人財育成でSDGs」といたしました。少子高齢化、人口減少による働き手不足は日本の喫緊の課題であり、国と地方自治体はこの課題に積極的に取り組んでいます。しかもこの課題はコロナ禍により前倒しで到来し、多くの医療・福祉施設が働き手不足で苦勞しています。

全国の済生会施設で取り組まれている人材確保・人財育成のノウハウを共有して、各施設の発展に寄与できればと考え、メイ

ンテーマにしました。基調講演、シンポジウム、一般演題などで多くの参加者が学び合い、共有化し合い、多くの知識を共有できたらと思っております。また親しく交流ができ、いろいろな情報共有ができればと考えておりますので、多くの演題のご参加をお願いいたします。

今回学会を開催されているご熊本市と松山市はいくつかの共通点があります。熊本市と松山市は人口50万から100万人の中規模県庁所在地です。市の中心部には熊本城、松山城というお城があり、周囲を路面電車が走っています。

夏目漱石についても共通点があります。夏目漱石は松山中学で教鞭をとり、その様子は小説「坊っちゃん」に描かれています。この間に正岡子規と出会い、俳句に精進しました。漱石はその後、熊本に移動し、第五高等学校で教鞭をとっています。熊本でも俳句に積極的に取り組み、熊本の俳壇に大きな影響を与えました。

松山市では現在も俳句が盛ん

で、市内には百弱の場所に俳句ポストがあり、多くの方が俳句を投稿されています。高校生の俳句の祭典、「俳句甲子園」を毎年、松山中心部の大街道で開催されています。

松山市は北の瀬戸内海、南の石鎚山系に囲まれ気候は温暖です。学会開催中には松山港に瀬戸内海巡回診療船「済生丸」に係留し、「済生丸」見学を含むエクスカージョンも計画していますので、ぜひご覧になってください。

この時期にはいろいろな種類の柑橘系が出荷されていて、それぞれの味を堪能することができます。また一時有名になった「じゃこ天」や「タルト」志ぐれ「宇和島鯛めし」等の名産品もたくさんあります。春の息吹を感じる2月の松山で全国の済生会の皆様とお会いできることを大変楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

初期研修医合同セミナー

「学ぶ側」から「教える側」へ 指導者の役割を学ぶ



1月27日に熊本城ホールで、初期研修医のための合同セミナーが開かれ、済生会病院に勤務する1年目の研修医と研修責任者（指導医）合わせて274人が出席した。済生会学会・総会に合わせて開催しているもので、臨床研修の情報交換を行ない研修医同士の交流を深めている。

都宮病院の泉学総合診療科主任診療科長（済生会医師臨床研修専門小委員会委員）が進行。本部・松原了理事の挨拶に続き、グループワークが行われた。

参加者は4月に2年目の研修医になりこれまでの「学ぶ側」から、1年目の研修医や済生会で臨床実習を受ける医学生を「教える側」になる。研修責任者がサポートする中、参加者は指導者としての役割を議論。自身のスマートフォンを用いて臨床研修に関するアンケートにも答えながら指導

者としての役割を学んだ。

恒例のレジデント企画「当院の初期臨床研修」では、研修医が自院の研修の魅力プレゼン。研修責任者の投票の結果、優勝（神奈川県）横浜市南部病院、準

優勝は熊本病院、3位（富山）高岡病院に賞状と記念品が贈られた。

（済生会総研・人材開発部門／本部事業基盤課）



四役会議等



病院長会議



看護部長会議



事務（部）長会議



福祉施設長会議



薬剤部長会議



診療放射線技師長会

全国の病院長、事務（部）長、看護部長、福祉施設長、薬剤部長が集まる会議が1月27日、ホテル日航熊本などで開かれた。

福祉施設長会議は▽老人保健施設▽老人福祉施設▽障害者施設▽訪問看護ステーション——に分かれて分科会を行なった。

今年是全国済生会診療放射線技師長会が初めて開かれた。

臨床研修管理担当者研修会

済生会の臨床研修を情報共有

等を解説した。

11月27日に熊本城ホールで医師臨床研修管理担当者研修会が開かれ、指導医36人が参加。企画責任者で水戸済生会総合病院の千葉義郎臨床研修センター長（済生会医師臨床研修専門小委員会委員）と福井県済生会病院の金原秀雄内科部長が進行した。

前半は㈱メディカル・プリンシプル社の山崎香織氏が、「医学生・初期研修医の最近の動向」と題し、近年のマッチング傾向、医学生・研修医が知りたい情報、Z世代の研修医の満足・特長

後半は「各医療機関における医師臨床研修の取り組み」について、熊本病院の杉山眞一医師研修室長兼総合診療科副部長（東京）中央病院の足立智英臨床研修室室長、新潟病院 坪野俊広副院長・教育研修センター長が、自院の活動を紹介した。

講演や事例発表後は意見交換が行なわれ研修医の確保など理解を深めた。

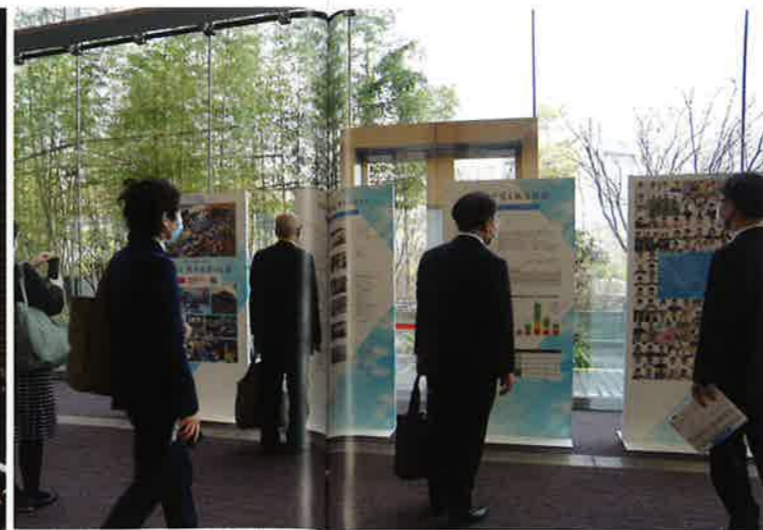
（済生会総研・人材開発部門／本部事業基盤課）



命を支える杖になる
 ～ 済生のこころとアウトリーチ ～



北里英郎氏

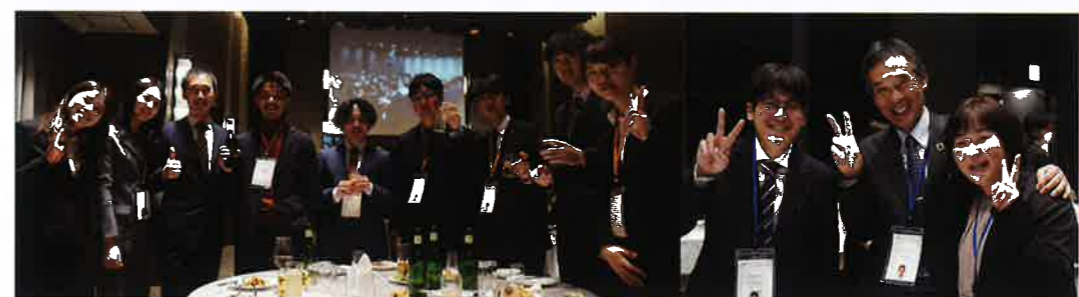


第76回済生会学会は1月28日、熊本城ホールで開かれた。テーマは「命を支える杖になる～済生のこころとアウトリーチ～」。熊本出身の北里柴三郎の言葉「医者国民にとって命の杖とならねばならない」という信念に由来している。熊本県では45年ぶり3回目の開催で、熊本病院が担当した。

午前8時50分から始まった開会式で学会長の中尾浩一・熊本病院院長は、「施薬救療という済生のこころをもって、人々の命と暮らしに手を差し伸べることは済生会の存在理由で私たちの使命」と挨拶した。

潮谷会長は「済生会への大いなる期待―歴史に学ぶ、生命に向き合う―と題し基調講演。北里柴三郎記念館館長の北里英郎氏は「感染症の歴史と北里柴三郎の戦い」と題した特別講演を行なった。

他にも、シンポジウム、ランチオンセミナー、パネルディスカッション、一般口演・デジタルポスター発表などが行なわれた。



懇親会

午後5時30分から熊本城ホ
ルで懇親会が開かれた。
熊本県済生会の副島秀久支
部長の挨拶に続き、来賓の福田
熊本県医師会会長と園田寛熊本

市医師会会長が祝辞を述べた。
全国済生会病院院長会の三角隆
彦会長（神奈川県・横浜市東部病
院）の乾杯の音頭で祝宴に入り、
会場には約2時間にわたって交

流と歓談の輪が広がった。島俊
英副会長（大阪・吹田病院
院長）の中締めで閉宴となった。

熊本病院の皆さん、おつかれさまでした

熊本地震での経験を胸に 復興に向けた息の長い支援を

濟生記者 東 賢剛

当院では令和6年能登半島地震の発災を受け、DMAT2隊の他、広域派遣看護師2人、薬剤師2人の計13人を現地に派遣し、各種支援活動を行ないました。

**広域派遣看護師2人を派遣
珠洲で病院スタッフを支援**

厚生労働省の要請により、1月12～17日の6日間、前川哲志

・南和恵看護師（広域派遣看護師）2人を珠洲市総合病院に派遣。現地スタッフと協力してCOVID-19患者を含む病棟業務に従事しました。

**薬剤師2人を輪島へ派遣
院内薬局や避難所等で活動**

日本病院薬剤師会の要請により、1月12～15日の4日間、災害派遣登録薬剤師として柴田啓智さんを市立輪島病院に派遣。院内薬局での調剤や処方支援業

務に従事しました。1月17～21日の5日間は、熊本県薬剤師会の要請で災害支援薬剤師として西健太郎さんを輪島市に派遣。避難所で地域の病院やモバイルファーマシー（移動薬局車両）等と連携して支援活動を行ないました。

**DMATを2隊派遣
医療・福祉ニーズに応える**

厚生労働省の要請により、1月16～22日の7日間、DMAT1隊として川野雄一朗医師、柴尾嘉洋・渡邊朝子看護師、山下正・西中巧ロジスティック補助員、瀧下恭司救急救命士の計5人を現地へ派遣。穴水町で避難

所・福祉施設巡回診療や段階別ベッド設置等の支援活動にあたりました。続いて、DMAT第2陣として1月26～30日の5日間、佐藤友子医師、増田博紀・平野晋大看護師の計3人を石川県県庁に派遣。患者や避難希望者を、被災地から安全な場所へ航空搬送する支援を実施しました。

熊本病院は平成28年熊本地震の際、全国から多くのご支援をいただきました。少しでも恩返しができるよう、復興に向けた息の長い支援に今後も取り組んでいきます。

全国から駆けつけた仲間たちとともに
広汎な分野で活躍する熊本病院の派遣隊員



広域派遣看護師 [P27に詳細があります]



DMAT第1陣 [左]ダンボールベッド設置 [右]車内での情報収集(ロジスティック任務)



災害支援薬剤師



DMAT第2陣



総合的な災害支援



新潟病院派遣隊員提供

〈佐賀〉唐津病院派遣隊員提供

能登半島 続く支援 地震

令和6年能登半島地震の発災から1カ月以上が経過し、急を要する医療支援から、長期化する避難生活での健康維持や二次被害予防等へと支援ニーズが多様化してきました。DMAT・JMATをはじめ、看護師や薬剤師の派遣、JRAT（リハビリの観点から支援）、DWAT（災害派遣福祉チーム）など多岐にわたるチームが連携しながら、それぞれの役割を果たしています。



山口総合病院派遣隊員提供

岡山済生会総合病院派遣隊員提供



〈富山〉高岡病院派遣隊員提供

滋賀県病院派遣隊員提供



〈福井〉特養聖和園派遣隊員提供

静岡済生会総合病院派遣隊員提供

〈千葉〉習志野病院派遣隊員提供

滋賀県病院

一時待機ステーション運営支援
DMAT撤退後も視野に

済生記者 西澤真由美



金沢市・いしかわ総合スポーツセンター内に、高齢者施設からの避難者が次の施設の受け入れが決まるまでの待機場所としてつくられた「一時待機ステーション」。

その運営支援のため、1月17～21日、当院DMAT（第2次隊）を派遣しました。メンバーは中本和真医師・中村紀夫看護師・尾島由美看護師・植田征太理学療法士・今村武尊救急救命士の5人。

介護が必要な人も多く、看護師は入所者の受付や日々の体調管理、日常生活ケアを中心に、ロジスティクスは入所者情報の管理や体調不良者を病院へ搬送するための調整などに従事。また、次のDMATが来てもスムーズな引き継ぎができるよう待機ステーションの運

営体制構築も大きな役割でした。

職種・組織を超え連携強化

引き続き、一時待機ステーションの運営支援を行なうべく、当院DMAT第3次隊（奥村能城医師・野矢忠男看護師・小西友里江看護師・西川淳二診療放射線技師）が1月24日から28日まで派遣されました。

第3次隊のミッションは待機ステーションの運営支援の他、DMATから自治体や保健所などが引き継ぎ運営できるように、マニュアル整備や体制の簡素化などの体制構築を行なうこと。

特に看護師は積極的にコミュニケーションをとって他職種・他組織間の垣根を取り払い、待機ステーションの運営体制構築のために必要なスタッフ間の連携強化に貢献しました。

業務の簡素化と縮小に尽力

1月31日～2月4日、高松学



今回はDMAT撤退を見据えて待機ステーションの運営業務の簡素化と規模の縮小を行なうため、情報分析などのロジスティクス業務にあたりました。

文医師、野村昌夫・林薫看護師・小島慎二薬剤師、今安弘樹救急救命士の5人からなる当院DMAT（第4次隊）は、県庁内に設置された金沢以南保健医療福祉調整本部に派遣されました。

特に力を入れたのは、入所者情報の記録管理の簡素化と一元化。運営体制の維持や簡便な情報管理を行なうためのデータベースを作成し、使用方法の引き継ぎを行ないました。

〈奈良〉 災害医療活動は壮大な
チーム医療だと痛感

リハビリテーション科 常森周一

奈良県から派遣されたDMAT第1次隊（全体では第2次隊）として、1月4～7日、当院の医師1人・看護師2人・業務調整員（理学療法士）1人の計4人が支援活動に当た

りました。金沢市の石川中央DMAT活動拠点本部（県立中央病院内）では病院支援指揮所に配属され、



5隊が活動する中、当院は診療支援を担当。被災地域の患者さんを受け入れ、後方搬送が必要な患者さんに対しては診療・安定化処置をして、搬送先の確認や搬送依頼・各連絡、患者リスト作成、ベッド管理や診療部門内の人的資源の動的な管理などを行ないました。

普段、病院ではチームで医療を提供していますが、その重要性は特に災害時に顕著になることを今回改めて感じました。各専門チームが協力し、それぞれの得意分野で力を発揮することで、迅速で効果的な医療対応が可能となっていました。

〈三重〉松阪 総合病院 被災直後からDMAT出動準備
避難所支援と患者搬送に従事

外科部長 近藤昭信



当院では地震の発生直後からDMAT派遣に備え準備を開始。第1班として医師（筆者）、長島孝行・西岡直道看護師、茂木健人・牛場智也業務調整員の5人が1月4日に出発、7日まで現地での活動を行ないました。道路の損壊が激しく、活動拠点の市立輪島病院に入ることができたのは5日の正午です。当院DMATは輪島市内の避難所支援を担当。各避難所の状況を確認し、現状での問題点や医療

ニーズなどについて調査を行ないました。山間部では携帯電話等の電波が通じず、道路の損壊もあって避難所（があるところにも難渋しました。最終日は輪島病院から金沢市内の病院へ患者の転院搬送を行ない、活動を終了しました。医療行為としての活動はあまりありませんでしたが、DMATが避難所に向かうことで被災者や避難所の運営担当者に寄り添うことはできたと思います。



新潟病院 物資班や保健師チームの
業務支援を担当

人事課 斎藤謙史朗

当院では2回のDMAT派遣を行ないました。1回目は1月4～7日、医師1人・看護師2人・業務調整員1人を市立輪島病院へ派遣。物資班を担当し、機能停止中のSPD（院内物流管理）業務に代わり県調整本部へ必要物品の発注を行ないました。

断水状態が続く飲料水や食料品の入手が必須でしたが、災害時特有の情報錯綜により正しく納品されないこともあり、対応に苦慮しました。2回目は1月20～24日、看護師2人・業務調整員1人を珠洲市保健医療福祉調整本部に派遣



しました。珠洲市では、老人介護施設等の避難に向けた情報収集や保健師チームの業務支援として、個人宅を訪問して健康観察を行ないました。

倒壊の恐れのある家屋で不安を抱えながらも、多くの方が生活を続けているのが現状です。

京都済生会 病院

DMAT2チームを派遣 患者転院調整や病棟業務支援

済生記者 **白須優也**



京都府のDMAT 出動要請を受け、1月9～13日(第1陣)と1月28日～2月1日(第2陣)、当院DMAT2チームを能登半島地震の被災地に派遣しました。それぞれ医師1人・看護師2人・業務調整員(薬剤師、事務員)2人が出動しました。

京都府のDMAT ターでトリアージ・転院調整等を行ない、2日目以降はDMAT活動拠点本部で通信・クロノロ(経時活動記録)班として活動しました。被災地の状況が刻々と変わり、また情報の交錯や行政の方針変更などがある中、臨機応変に対応。被災した病院・介護施設・避難所などからの患者受け入れも多数ありました。

第2陣は、メデイカルチェックセンターの運営(連絡、記録)や病棟看護業務の支援、患者搬送業務を行ないました。

岡山済生会 総合病院

病院機能の回復進まず 現地病院職員は疲労困憊

済生記者 **高畑貴子**

1月13～17日、DMAT第5次隊として当院の土井武診療部長、井元万奈夫・小林俊之看護師、岡部卓史事務員・茅本洋平理学療法士(業務調整員)の5人を派遣。能登町役場保健医療福祉調整本部の指揮下で、公立宇津総合病院での支援活動を行ないました。

中では業務を遂行していたとのこと。他県DMAT隊とともに、医師と看護師は救急外来の診療支援と転院搬送調整、業務調整員は支援指揮所運営と物資調整などを担当しました。

土井診療部長は「復興半ばでなんとか踏ん張ろうとする病院があり、わずかながら協力できたことに誇りを感じる」と語りました。



〈神奈川〉 横浜市東部病院

日々変化する現場のニーズ 柔軟に対応することが必要

済生記者 **荒木愛美**



石川県からDMATの派遣要請が関東ブロック(本県含む)にあり、当院はDMAT隊員6人(医師2人・看護師2人・救急救命士1人・事務員1人)を派遣しました。

派遣期間は1月16～22日。能登中部医療圏活動拠点本部(能登中部保健福祉センター内)を

拠点とし、患者搬送や感染症患者対応等の災害医療支援活動を行ないました。

今回の活動について隊員の妹尾聡美医師は「災害の状況に応じて日々刻々と変化するニーズに柔軟に対応することが現場では求められた。後方支援の皆様の協力もあり、



我々のチームの特性を生かしながら対応できた」と話しました。

山形 済生病院 珠洲市総合病院で患者搬送調整 看護師は発熱外来支援も

済生記者 **柏倉汐里**



当院では山形県からの2回目のDMAT派遣要請を受け、1月21～23日(現地活動期間)、医師1人・看護師2人・業務調整員2人の計4人を珠洲市総合病院に派遣しました。

隊員からの報告によると、今回の活動では医師と業務調整員は患者搬送調整を担当。関係各所と何度も連絡を重ね、情報収集と連絡調整によりスムーズな搬送につなげることができました。

看護師は日勤帯の発熱外来の



支援を担当。施設・避難所等でも発熱患者が非常に多く、多数の検査対応を行なったとのこと。

小児科 塩田 勉

当院では静岡県のDMAT派遣要請に基づき、1月23～26日、小児科医1人・看護師3人・業務調整員2人（作業療法士・事務）の6人からなるDMAT隊を輪島市役所へ派遣しました。輪島市保健医療福祉調整本部の指示のもと、門前地区の医療ニーズの評価や、福祉避難所の候補地のチェック、さらには市役所や福祉施設の復旧作業等も実施。1月6日の1隊目の派遣から2週間経った今回の派遣では、医療ニーズは縮小し、福祉ニーズが高くなっています。



断水と寒さの影響で、被災地の方々の生活は苦しい状況にあり、支援にあたってはDMATだけでなく多種との連携の大切さを改めて感じました。



大分県から県内医療機関へDMATの派遣要請があり、六つの病院が引き継ぎを行ないながら穴水町の病院で支援に当たりました。当院DMATの出動は4番目で、医師1人・看護師2人・事務員1人の計4人が現地へ行くことに。1月25日の出発式には大勢の職員が参加し、林田良三院長の激励の言葉とともに隊員たちにエールを送りました。26日に穴水町へ到着後、当院の前に出動した大分県立病院から対応を引き継ぎ、活動を開始。現地のDMAT隊員と日田病院にいる隊員が毎日情報共有をしながら、避難所での避難者の健康管理や患者搬送など3日間の活動を行いました。活動後、隊員たちは



31日に帰院。職員で迎え、帰着式を行いました。隊員一人ひとりを労いながらハグをした林田院長の温かな笑顔が印象的でした。

済生記者 後藤優佳

〈大分〉
日田病院

県内6病院で
引き継ぎながら
DMATを派遣

〈東京〉
中央病院

済中DMAT2隊 初出動
介護福祉施設の現状把握に尽力

済生記者 鈴木香純



1月24～26日の3日間、当院のDMAT6次隊が出動しました。メンバーは集中治療科・有馬史人医師（隊長）、看護部の深谷貴子師長と富田万喜子さん、診療放射線技師の奥村真司さんの4人。七尾市に設置された保健医療福祉調整本部で、DMAT6次



隊福祉施設班として活動しました。七尾市と志賀町の60施設ほどの介護福祉施設の現状把握に努め、県や災害対策本部から依頼された情報を各施設に確認しデータ化。必要に応じてDMAT派遣班の出動指示を行ないました。

介護福祉施設への支援は今回が初の試み。発災直後とは違うフェーズでの対応が必要となり、日々本部で収集するデータも変化していました。情報収集方法としてデジタルフォームの活用を提案するなど、試行錯誤しながら施設の支援に尽力しました。

山口 長期化する避難生活を
どう乗り越えていくかが重要

外科部長 上杉尚正



1月29日～2月1日、山口県のDMAT6次隊として、当院の医師（筆者）1人・看護師2人・事務員1人の計4人が能登町で支援活動を行いました。発災後約1カ月が経過し、災害サイクルのフェーズとしては亜急性期に移行しつつあり、活動内容は患者搬送、高齢者施設や避難所での介護支援、診療所や救護所での診療ニーズへの対応が中心となりました。ライフラインは寸断されたままで、通常通りに業務を行な

うことが困難な状態が継続。現地の医療従事者は、被災者でありながら医療にあたりています。人手不足が深刻で、医療従事者のケアも課題と感じました。今後は、長期化する避難生活をどう乗り越えていくかが重要です。過去の事例から、どう備え、助かった命を救いきるか。切れ目のない支援を行ない、災害関連死を防ぐ取り組みを進めていく必要があります。



1・5次避難所で活動 先の見えない避難生活をケア

済生記者 田中一弥

福井県からDMAT派遣
要請があり、医師1人・看護
師2人、ロジスティクス
(業務調整員) 1人の計4
人が2月2日から5日まで、



いしかわ総合スポ
ーツセンターで活
動しました。

同センター内は
大きくメインエリ
ア・マルチパーパ
スエリア・サブエ
リアに分かれ、原
則として医療行為
を行わない1・
5次避難所として
運営されています。

今回の派遣での
主な任務は、有症
状入所者対応に加
え、少人数でも運
営できるようにす
るための業務や運営
方法の見直し、入所
者の情報収集でした。

活動した隊員は「少
しずつ環境は整って
きました。



きたが、被災者が普段の生活に
戻れるのはいつになるのか――。
今自分たちができることを精い
っぱいしていきたい」と話して
いました。

長引く避難生活 避難者の心に寄り添い 支援

済生記者 齋藤有里

福島県医師会から日本医
師会災害派遣チーム(JM
AT)の派遣要請を受け、
1月30日から2月3日まで、
医師1人・看護師2人・薬
剤師1人・事務員1人の計
5人が出勤。石川県庁JM
AT本部の指示により、金
沢以南調整支部の中で活動
しました。

主な任務は、金沢市から
車で1時間ほどの白山市で
2次避難所(体育館、ビジ
ネスホテル、民宿、ペンシ
ョン等)に避難している
方々の健康管理。中には超
高齢の方もおり、生活の大
きな変化により体調不良を
訴える方も少なくありませ
んでした。

また、輪島市の中学生約
240人が白山市の宿泊研
修施設に集団避難しており、
住み慣れた土地を離れ避難
生活を送る生徒や先生方の
心に寄り添いながら医療支
援を行いました。



看護師の派遣

断水が続く不衛生な環境下 あるもので工夫しての支援活動

済生記者 田中一弥

日本看護協会からの派遣要請
があり、1月6～9日と15～18
日の2回、当院から3人の看護
師が災害支援ナースとして輪島
市で活動しました。

1月6～9日は2人が市立輪
島病院で主に入院患者さんのケ

アに従事しました。

電気は復旧しており暖房は使
えたものの、断水は継続。清潔
ケア・シート交換などが十分に
できず不衛生な環境の中、ある
もので工夫してできるだけケア
を行っていました。断水する
と病院機能が失われる可
能性を痛感するとともに、
被災しながらも笑顔で働
く現地スタッフに尊さを
感じました。

1月15～18日は1人が
輪島高校での支援活動を
担当。同校には避難所と
福祉避難所の二つが開設
され、複数のブロックに
分かれていました。

活動内容は担当プロッ
クの避難者の健康チェッ
ク、環境整備、災害用ト
イレなどの清掃、食事の
提供、DMATメンバー
への回診介助、情報提供、
緊急搬送など多岐にわた
りました。



被災者でもある 医療従事者が 少しでも休めるように支援

看護師 橋本世子典、大場雄太

1月12～18日、当院
から2人、他の済生会
(熊本・福岡・静岡) から計4
人の看護師が珠洲市総合病院に
派遣され、災害支援活動に当た
りました。

余震が続き、ライフラインも
不安定な中、派遣先の病院スタ
ッフの方々と共に入院患者さん
の対応を行っていました。

「自宅が倒壊した」家族が金沢
市内へ避難中」など被災者でも
ある病院スタッフが少しでも休
みを取れるよう、看護業務だけ
でなくトイレ掃除や部屋の掃除
などの支援活動も行いました。

派遣スタッフも寝袋を持参し
会議室で寝泊まりするなど制限
のある中での支援でしたが、今
後の継続的な支援活動に生かし
また今後起こり得る災害に備え
るためにも、今回の経験を共有
し伝えていくことが大切だと感
じました。



寝袋での生活



「オール済生会」のワンショット。左から熊本病院(2名)、福岡総合病院、〈大阪〉中津病院(2名)、そして静岡済生会総合病院に所属する6名の看護師

看護師広域派遣で珠洲へ 食事・寝袋持参、自ら考え行動

済生記者 富永朋美

1月12日から7日間、当院救命救急センター所属の副田剛希看護師長が珠洲市総合病院で支援活動を行いました。



金沢市内から通常2時間のところ、道路の寸断や積雪による悪天候が重なり、約5時間をかけ病院に到着。現地でもスタッフも被災しており車中泊や避難所、院内で寝泊まりしている状況でした。現地ではコロナをはじめ感染症が増加傾向で、患者さんのケア、環境整備、緊急入院対応など3交代の7人体制で活動し

ました。電気は一部通っており、水道は下水には問題がなかったため給水が可能でしたが、節電・節水のため食事はすべて持参（自己完結型が基本）。11人のスタッフが交代しながら寝袋で仮眠をとりました。



被災者を元気づけるため、派遣スタッフは明るく振る舞って支援した

発災から間もない時期で指示系統や業務内容が確立されておらず、派遣されたスタッフは自ら考え行動する必要がありました。「今、何が望まれているのか」を常に汲み取って動くこと、また、被災した現地スタッフにも寄り添った声掛けや行動が必要だと痛感しました。

〈富山〉 高岡病院

災害支援ナースとして 1・5次避難所で活動

クリティカルケア
認定看護師
福井達也



日本看護協会からの災害支援ナース派遣要請があり、筆者は1月15日から4日間、1・5次避難所の「いしかわ総合スポーツセンター」で活動しました。ここでは奥能登2市2町の被災者を受け入れており、今回の任務は、災害関連死を未然に防ぎながら、2次避難所へのマッチングを行なうことです。1・5次避難所は、全国から招集された約20以上の多職種

点で活動する必要があります。開設当初はまさに手探り状態で、保健師から介入依頼のあった利用者さんに対し、医療や看護の必要性の判断を看護師が行ない専門職種と連携することは困難を極めました。実地での活動を通じて、即席で結成されたチームで指揮命令系統を確立し、迅速な多職種連携を行なうことへの課題が浮き彫りとなりました。



軽度でしたが、今後の対応を考えるきっかけにもなりました。

〈茨城〉 神栖済生会病院

災害支援ナース・DMATが 珠洲で診療支援などに従事

済生記者

江口裕紀



1月15日、被災地への出発のあいさつを行なう佐藤看護師(左)

1月25日、DMAT出発式で隊員に激励の言葉を送る金沢義一院長

当院では、看護師1人を1月17・22日の6日間、DMATを1月25・28日の4日間、被災地に派遣しました。災害支援ナースの資格を持つ佐藤安那看護師は、済生会本部からの派遣要請に対して院内で真っ先に手を挙げ、珠洲市総合病院で外来診療や転院搬送介助

などの支援に携わりました。また、創設後初めての出勤となった
当院DMATの
藤井猛雄医師・
前田夕子看護師
・川地裕典薬剤師・
佐々木健臨床工学技士の4人も、普段あまり雪の降らない当地から急ぎよ冬用タイヤに付



佐藤看護師の活動が2月7日付「茨城新聞」に掲載された

け替えた病院救急車で被災地へ。先発の佐藤看護師同様、珠洲市総合病院で当直帯の診療や本部署の支援等を行ないました。なお、活動の様子等は地元新聞にも掲載されました。



右4人が済生会メンバー(左は輪島病院看護師)

〈福岡〉 飯塚嘉穂病院

被災した患者さんに寄り添い 現地スタッフを支える

緩和ケア病棟看護師

服部奈美代

1月28日から4日間、広域派遣看護師4班の22人(済生会からは(佐賀)唐津病院から2人、(鹿児島)川内病院から1人、筆者の計4人)が市立輪島病院に派遣されました。現地では救急外来と一般病棟、感染病棟に分かれて活動。筆者や現地医師・看護師と情報共有

をしたり、被災した患者さんから直接話を聞く機会があったりと、それぞれの苦悩を感じることができました。被災した患者さんに寄り添い、被災看護師の心身の負担を軽減し支えられるよう、各自の気づきをチームで共有し、現地スタッフに確認をしながら積極的に行動するようにしました。飯塚嘉穂病院緩和ケア病棟のスタッフに事前に応援メッセー



いることを伝えると、大変喜んでくれました。

災害支援ナースとして避難所へ
健康管理・環境調整中心に活動

検査部
主任看護師
井上 健



千葉県看護協会から災害支援ナースの派遣要請を受



け、1月15〜18日、穴水町の広域避難所の「さわやか交流館ルート」に派遣されました。千葉県看護協会は4人1組で行動しており、筆者らは第2陣として活動しました。発災後2週間ほどが経過した当時、電気と上水道が復旧していましたが、下水処理場は機能不全でトイレは流せない状態。一方、民間ボランティア団体の参加により、

3食の炊き出しが不足することなく提供できていました。健康管理（疾患や服薬状況の観察、感染者の隔離処置）、環境調整（部屋の配置換え、土足厳禁部屋の作成）、生活環境調整（トイレの清潔管理、手洗い励行での感染予防）などを中心に活動。「手を拭けない・洗えない」という問題に対して、物資が入り困難な中、



支援に参加していた藤田医科大学のご助力により手拭き用のペーパータオルを入手できました。所属を越えて協力を得られたことが印象的でした。

〔千葉〕
習志野病院

現地病院の看護スタッフへの
継続的な支援が必要

看護部
看護師長
仲村孝一



厚労省からの看護師派遣第2陣として、1月17日から6日間、珠洲市総合病院で支援活動を行いました。珠洲市では道路状況の悪さから救助を要する人を後方搬送することができず、派遣先病院の看護スタッフは疲労が蓄積されている状態でした。そのため、できるだけスタッフの疲労軽減が図れるよう、看護業務を率先して行ないました。

「元旦からほとんど休めず、家族や子どもと10日以上会えてない。家も倒壊し、今後どのように生活すればよいか不安（病院スタッフ）」。避難所から通っているスタッフも多いのですが、病院勤務の後看護士として避難所で健康相談等を受けざるを得ず、休めない状況が続いています。そこで、石川県から



現状調査依頼を受けたDMAT隊員に、看護スタッフの置かれている状況を報告。継続的な支援を依頼しました。

〔埼玉〕
川口総合病院

看護師3人が金沢病院へ
済生会病院同士の固い絆

済生記者
原 衣里奈



金沢病院・越戸看護部長（左）と松尾看護師

本部を通じて金沢病院への職員支援要請があり、当院からは手を挙げた3人の看護師が向かいました（それぞれ約2週間、2月1〜29日）。松尾看護部長の派遣期間は2月1日から15日まで、「能登地方の被災病院から患者さんを受け入れている

金沢病院は常に満床状態で、同院の看護師さんたちは大変疲弊している様子でした」と松尾さん。

そんな状況でも病気やケガは待つてはくれないため、いかに工夫して患者さんへ医療を届け

るかを全職種一体とって考え行動していたとのことです。最終日には、金沢病院の越戸和代看護部長から直筆のメッセージとともに「梅結びの水引細工」のプレゼントが。全国の済生会病院同士の固い絆を表しているかのようでした。



〔佐賀〕
唐津病院

被災した看護師の負担
減らすのが任務

看護師
（災害支援ナース）
鬼木美佐子



厚労省の要請を受け、1月17日から6日間、全国の済生会病院の看護師6人を含む11人が珠洲市総合病院に派遣されました。前任者から過酷な状況を聞いており「私ができることをやろう」と心に決め金沢入りしました。珠洲までは液状化や地割れ、山崩れなどで大変な悪路。パンクを覚悟しつつ平常時の2倍の時間をかけ車で移動しました。派遣当時のライフラインは、水は給水車で対応、電気・トイレは使用可能ですが紙は流せないという状況でした。

らし、オーバーした患者は翌日被災地外へ搬送。すでにDMATが数隊活動しており、リーダーの指示のもと、肺炎や感染性腸炎などと、軽傷者の病棟でオムツ交換やケア、体位交換などを行ないました。



寝袋を持参し、病院の空き部屋で寝泊まりした

〔佐賀〕
唐津病院

輪島病院に看護師22人派遣 外来・入院患者ケアをサポート

看護師(災害支援ナース)
廣田深雪

済生会からの4人を含む総勢
22人が1月27日から6日間、広



【上】トイレトレーラー階段には滑り止め



【下】透析室で寝泊まり

域派遣看護師第4班として市立
輪島病院へ派遣されました。

現地に着くと自己紹介も早々に勤務場所・勤務形態を10分決めて、早い人は当日夜動入りました。電気は使用できませんでした。水道は止まっていたためトイレトレーラーを使用、手洗いはDMATが毎日タンクを用意してくれました。

私たちの勤務場所は発熱・救急外来と内科・コロナ病棟で、業務内容は外来や入院患者対応、ケア全般のサポートです。筆者

は発熱・救急外来を担当しました。発熱外来の患者さんは約9割がコロナ陽性で、避難所や自宅、車中泊の方などさまざま。救急外来では家屋の修理中にチェーンソーで切創した人、ガラスの解体中に目にガラスが刺さった人、夜になると不安で腹痛などの身体症状が出た人など、被災地ならではの患者さんが多く見られました。

ある車中泊の夫婦は、被災後一度も替着えられず「臭いのにごめんね」と涙ぐまれていました。1カ月経ってもまだこのような状況なのかと言葉になりませんでした。



輪島病院の職員と応援スタッフ。初対面での過酷な現場こそ、チームワークが不可欠



救急外来で備品のチェック

災害福祉支援・健康被害の予防

〔静岡〕
川奈臨海学園

日々状況が変わる中、 避難者の声に耳を傾けニーズキャッチ

済生記者 鈴木一大

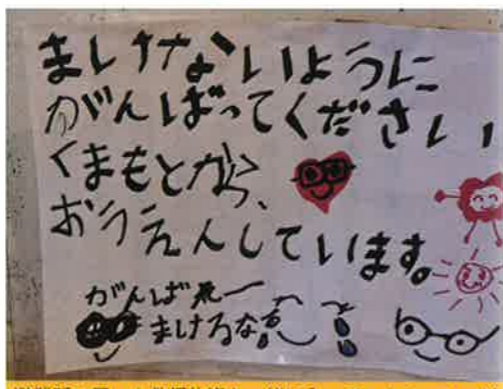
石川県から静岡DWA T(災害派遣福祉チーム)に派遣要請があり、当園は1月15日から2月22日まで、瀬戸純也副主任(保育士)、山田善紀主査・児童指導員で

ある筆者の3人を避難所のある金沢市と志賀町に計5回派遣しました。筆者は3回目の1月29日、2月2日(移動日含む)、志賀町文化ホール避難所で支援活動を行



天気の良い日は屋外で健康体操

ないました。発災から1カ月経ち、主な任務は避難生活の長期化によるQOL低下などニーズが多様化する中での継続支援、そして福祉が欠ける状態から派生する2次被害の予防です。医療的な支援が必要な場合にはJMATへつなぎました。4日間という短い派遣で



避難所に届いた救援物資と一緒に入っていたメッセージ

何ができるのか悩みましたが、避難者の方々の声に耳を傾けることを心がけていました。避難所には相談コーナーを開設し、日々のラウンド(聞き取り)の際も「何か困ったことがあれば、緑色のビブスを着た支援者に」と伝えましたが、むしろ日常的な会話の中でのニーズキャッチや、体調確認を行なうことの方

が多かったです。また、避難生活における心身機能の低下を予防するために、毎日午前と午後健康体操を実施。「体操のお兄さん」としてたくさんコミュニケーションを取りました。筆者にとっては慣れないリハビリの体操でしたが、間違っても優しく笑ってくれ、心も身体も温かくなりました。

〔静岡〕
特養小鹿苑

1日2回のラジオ体操 少しでも身体を動かす機会に

特養部 松尾鉄矢



石川県からの派遣要請を受け、1月16～19日、静岡県災害派遣福祉チーム

(静岡DWA T)として被災地の支援活動に当たりました。派遣場所は七尾市のコミュニケーションセンターと小学校の2カ所。

小学校には200人以上が避難中で、校内放送を使用して1日2回ラジオ体操をするなど、少しでも身体を動かして災害関連死を防ぐ対策を行ないました。主な派遣場所となったコミュニケーションセンターでは、フロアリングに厚敷数センチしかないジョイントマットを敷いて寝泊まりしている状況でした。気持ちが悪くなり横になったまま動き出しにくい男性、親が仕事に行き学童のように避難所に来ていた子どもたちと搬入されたダンボールベッドを組み立てました。コミュニケーションを取りながら活動することで、その男

性も生き生きとした表情を見せるように。子どもたちも「どうやってやるの? ハサミ貸して!」と元気に、前向きに作業し

てくれました。その姿を見て自分たちで少しずつ復興に向かっていこうという強い思いを感じることができました。

2次被害の発生予防 リハビリテーション 支援を継続

理学療法士 岡本陽介

滋賀県済生会訪問看護ステーション
日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)からの派遣で、1月14～19日(移動日含む)、PT2人・OT1人・ST1人のチームの一員として「いしかわ総合スポーツセンター」に設置されている1・5次避難所・一時待機ステーションで支援活動を行いました。被害が甚大な能登地域からの





Text: 新亜希子
Photos: 吉川信之

Hair & Make-up: 石松英恵

まつふじ・しおん 2008年生まれ、東京都出身。0歳から芸能活動を始め、TVやCMを中心に活躍。2020年頃から、俳優としての活動を本格化。第15回TAMA映画賞「最優秀作品賞」を受賞した23年公開の『雑魚どもよ、大志を抱け!』、22年公開『死刑にいたる病』など、話題作品に次々と出演。近年の出演作は『658km、陽子の旅』(23年)、『#マンホール』(23年)、『さよならモントーン』(23年)ほか。好きなこと・特技は歌舞伎、日本舞踊、テコンドー、スキー(スキー検定2級保有)、バドミントン。

時から役者ですが、おかげでテコンドーやバドミントン、日本舞踊や歌舞伎など、多くのことを経験できています。裕貴は演劇一本だけど、好きなことをやるってやっぱりいいことだなんて思いながら演じました」と役と自身を重ね合わせる。



©2023 埼玉県/SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ 川口市

映画『顔の転校生』

若手映像クリエイターの登竜門・SKIPシティ国際Dシネマ映画祭の20周年と、開催地である埼玉県川口市の市制施行90周年を記念し、埼玉県と川口市が共同制作した長編映画。松藤演じる裕貴は、大衆演劇一座に所属する中学生。1カ月ごとに転校を繰り返すため、出会いに期待しなくなっていた裕貴だが、ひょんなことから不登校の建と、その元彼女・菜耶と親しくなる。

■監督: 藤田直哉 ■脚本: 金子鈴幸

■出演: 松藤史恩、齋藤潤、葉山さら、村田寛奈、市川華丸、生津徹、タモト清嵐、佐伯日菜子/高島礼子

2月23日(金)からMOVIX 川口で先行公開

3月2日(土)からユーロスペースほかで全国公開中

好きなことをやるってやっぱりいい
だから一生、役者をやりたい

「この作品を通して、大衆演劇の魅力が皆さんに知ってほしい」と繰り返す松藤さん。今では自身も毎月公演に足を運び、1人で新潟まで見に行ったことも。そして本作を同年代にも見てほしいとのこと。「大衆演劇の世界に生きる裕貴にはあまり道が拓かれていないけれど、見て

くれる人にはいっぱい道があるって、無限の可能性を持っている。だから、いろいろなことに目を向けてほしいです」と話す。しかし、将来の夢を「役者」と定め、芸の道をまい進する裕貴の姿に悲壮感はない。松藤さんも演じながらそう感じたという。「僕も裕貴と同じで物心ついた

「役になりきることは、自分を改造するような感覚なんです。それと、僕はとにかく人に褒められたいし、目立ちたい(笑)。できれば主演もいっぱいやりたいし、明るい役も暗い役も、いつかはアクションも、いろいろな役を演じられるところを見たい。ずっと役者を続け、スターまで登っていききたいです」

松藤史恩

Shion Matsufuji



0歳から芸能活動を始めた松藤史恩さん。物心ついた時から芝居が楽しかったといい、将来も役者一本で進みたいと話します。

3月に公開された主演映画では、大衆演劇一座に所属する中学生の揺れ動く心を演じました。

「生まれながらにして役者」という共通点を持つ役に込めた思い、

将来の夢……

中学3年生の“今”、

感じることを

伺いました。



Vol. 166

口福につぼん

吉井省一



済生会は2023年度からスタートした「第3期中期事業計画」で支部未設置県の支部設立(復活)をビジョンに掲げています。
口福につぼんでは今月号まで連続で、済生会支部未設置の7県の逸品を紹介しています。

高知県は、北に峻険な四国山地が連なり、南は雄大な太平洋に面して、最後の清流、四万十川や、仁淀ブルーと呼ばれる仁淀川も流れる風光明媚な土地柄。私が好きな坂本龍馬の故郷でもあります。
一昨年、四万十川の河口で流

行のグランピング(ホテル並みの快適なサービスを受けられる野外キャンプ)を楽しんできましたが、自然の雄大さに抱かれて、心身ともに癒やされました。



土佐のソウルフードともいえる「田舎寿司」。酢飯を混ぜたり、シャリ玉をつくらしたり、具材をのせたり詰めたり。自分でつくる楽しみがあるセットは、子どもたちにも喜ばれそう

高知県の美味といえば、まずは鱈のたたきなど海の幸だと思いますが、今回取り上げたのは、里山の幸を使った「土佐田舎寿司」。素朴な味が自慢の逸品です。

今回のお寿司を選ぶ際には、ずいぶん悩みました。

魚のお寿司より見た目は地味だし、本当に地元の人たち

には食べているんだろうかと。先輩の作詩家が高知市出身だったことを思い出して聞いてみると、「田舎寿司、みんな大好きよ。ああ、こんな話をしてたら、食べたくなっちゃったわ」と心ここにあらずの表情。

どうやら、地元土佐の皆さんは「田舎寿司」に並々ならぬ愛着があるようです。その秘密はどこにあるのでしょうか。そこで、今回は出来合いのものではなく、家庭でつくられるセットを選びました。

78 土佐田舎寿司

《土佐御苑》

高知市



済生会支部未設置県

もともと高知は、柚子やポンカン、文旦など、柑橘類の栽培が盛ん。こうした風土から、柚子を搾った果汁で酢飯をつくる食文化が生まれました。そして、海から離れた山間地で、山や畑で育つ食材を海産物のネタ代わりに使ったのが「田舎寿司」の始まりとか。

自分でつくるとはいえ、本場の味はしっかり堪能したいので、高知の有名旅館「土佐御苑」の総料理長が素材選びから味付けまで総監修したものを選びました。



優れた伝統技能をもつ職人の称号「土佐の匠」に認定された渡邊晋一総料理長が監修

素朴な味に思わず箸が進む野菜寿司

食材は「りゅうきゅう(はすいもの茎)」「こんにやく」「みょうが」「しいたけ」「いなり」の5種類。すべて味付け済み。柚子を使った土佐御苑オリジナルのすし酢と、シャリ玉がつくりやすいようにプラスチック製



海の幸に恵まれた高知なのに、あえて里山の幸を使っている「田舎寿司」。高知の伝統的な食文化を伝える活動の一環として、鮮度を損なわず手軽に味わえる田舎寿司キットが誕生したとのこと

欲をかきたてる彩りに。醤油はかけずにいただきます。

まずは「りゅうきゅう」から。高知特産の食材は独特なシャキッとした歯応えで、さっぱりした味わい。これこそ「田舎寿司」には欠かせない鉄板ネタ。切れ目にご飯を詰める「こんにやく」はだしがしっかりとしみこんでいて思わずもうひとつ。

次に、甘酢漬にした「みょうが」をひと口。ピンク色の鮮やかな色と形が可愛く、爽やかな酸味が後を引いて、気持ちまでスッキリさせてくれます。「しいたけ」も、嚼むたびに旨みが出るとあふれ出て、それがご飯にほんのりしみとって美味しく。やや甘めの味付けがどこか懐かしさを感じられます。

最後に「いなり」ですが、これはゆず酢の香りがしみこんだご飯が油揚げと好相性。おいなりさん好きでなくてもつい手が伸びる味わいです。

我が家でも試しましたが、鰹節や唐辛子など、お好みのトッピングをするのも楽しいですよ。高知を舞台にした昨年の連続テレビ小説の主人公も好んで食べていた「田舎寿司」。こりゃ毎日でも食べ飽きない旨さぜよ。



「土佐御苑」入口にあるはりまや橋を模した真つ赤な橋(左)が旅情をかきたてる。高知ならではのおもてなし文化を象徴する豪華な血鉢料理(右)の一品としても「田舎寿司」は欠かせない

の型も付いています。炊き上がったご飯に、すし酢をふりかけると、ほわっと柚子の香りが部屋中に広がります。そう、これが「田舎寿司」が人を呼んでいる理由のひとつ。

胡麻や生姜のみじん切りを加えると、美味しさが増します。シャリ玉をつくらしたら、具をのせたり、具でシャリ玉を挟んだりしていきます。地味かと思われた見た目も、緑や赤など食



土佐田舎寿司キット5人前
[具(りゅうきゅう・こんにやく・みょうが・しいたけ・いなり)×各5個 計25個、土佐御苑オリジナルすし酢、にぎり寿司型]
3,000円(税込・送料別) 消費期限……冷凍30日程度(解凍後すぐ)

お取り寄せ・お問い合わせは

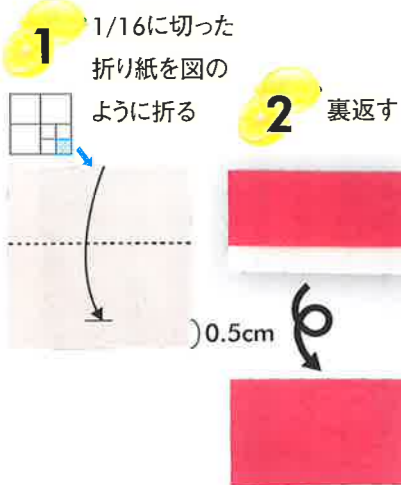
土佐御苑
〒780-0052 高知県高知市大川筋1-4-8
TEL: 088-822-4491
ホームページ: <https://www.tosagoen.co.jp/>

春を運ぶ カラフルちょうちょう

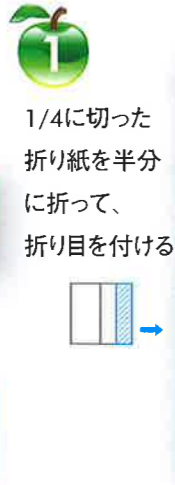


--- 山折り
- - - 谷折り
↺ 裏返す

頭



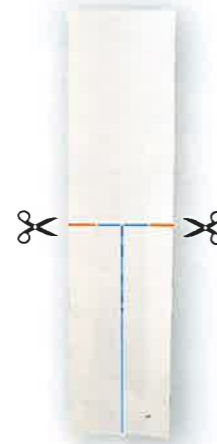
顔と体



2 下半分だけ縦の中心線を付けてから、下半分の左右の辺を中心で折り返す



3 図のように切り込みを入れる

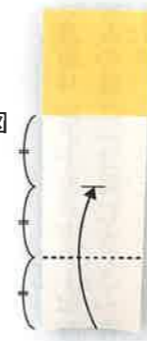


4 上の辺を点線で折る



5

下の辺を図のように1/3で折り上げる



7

顔を「頭」に差し込み、のりで貼る



8

顔の四つの角を1cm折り、体の下の角も少し折る



9

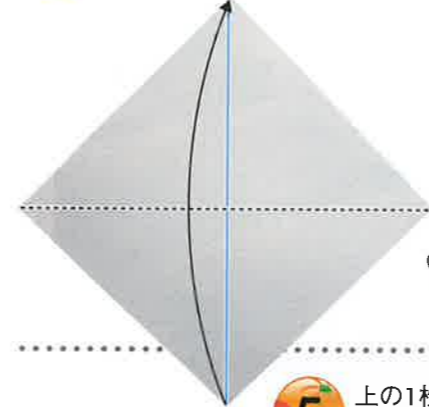
裏返して丸シールなどで顔を描く



羽

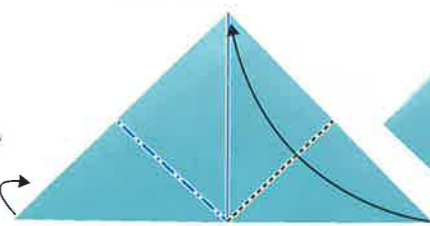
1

一辺が15cmの折り紙に中心線を付けてから、半分に折る



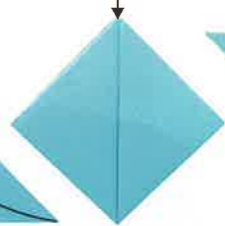
2

中心線に合わせて右側を前に、左側を後ろに折る



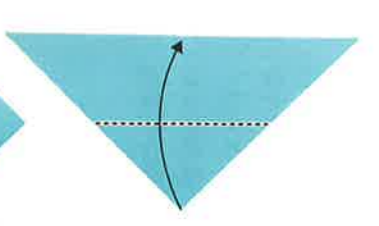
3

上の角をひらき、三角に折る



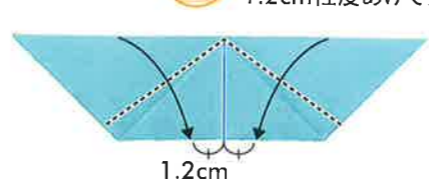
4

下の角を図のように折る



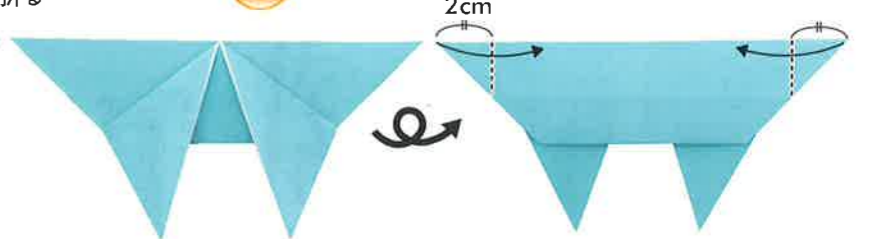
5

上の1枚だけを中心線から1.2cm程度あけて折る



6

裏返して、左右の角を2cm折る



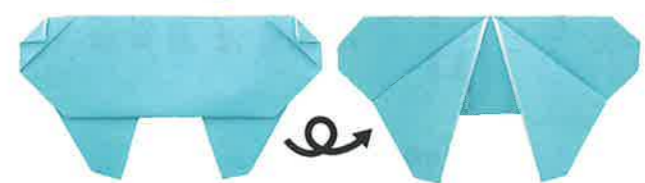
7

上の角を三角の底辺まで折り、下の角も1cm辺に沿って折る



8

裏返して、顔と体を貼る



完成



丸シールを細く切って、しよっかくも付けてみてね♡

【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ髪飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。

動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



〈大阪〉中津病院
脳・心・血管
治療センター開設

中津病院の南棟2階に開設した「脳・心・血管治療センター」のオープンを記念し、2月1日、式典を執り行ないました。当日は、大阪府済生会の讃岐富男常務理事が参加し、中津医



「鬼は外！ 福は内！」。長崎病院の託児所では節分の豆まきを行ない、無病息災などを願いました。

topics

病院内の仕立て屋さん
リニューアル！

〈石川〉金沢病院

2月5日、当院売店内に「ファッション外来」がリニューアルオープンしました。洋裁師の橋本久恵さんが「病気や障害でもオシャレをあきらめない！ 衣服のお悩みを診察します」と、毎週水曜日に患者さんやご家族からの衣服の相談を受けています。身体の状態や、衣服に関する



悩み・要望に合わせて洋服をリフォーム。ファッション外来ブースには、橋本さんが素材を選び、流行のデザインや機能性を取り入れ一着一着製作したユニバーサルファッションが陳列されており、実際に手に取り相談やオーダーメイドもできます。利用した人からも「お気に入り服をまた着ることができてうれしい」など喜びの声をいただいています。

（済生記者 中川範彦）
★オシャレは自分を伝えるコミュニケーションツールの一つ。誰でも楽しむことができるのは大切です。ね。

（本部広報室 杉山菜央）

療福祉センター・川嶋成乃亮 総長、中津病院・志手淳也院長 同院循環器内科・木島洋一郎長の4人でテープカットを行ないました。

脳・心・血管治療センターでは、手術台と血管X線撮影装置を組み合わせたハイブリッド手術室、心臓専用バイプレーン血管撮影室、脳・血管用のバイプレーン血管撮影室の3室を1カ所に集約。効率的かつ安全に治療が行なえる環境を整備しました。

（済生記者 鈴木亜希乃）

〈福岡〉大牟田病院
大牟田市社協から感謝状

大牟田市社会福祉協議会功勞者表彰式典が2月4日に開催され、当院の無料低額診療事業、フードドライブ・赤い羽根募金の活動に対して感謝状をいただきました。

フードドライブは令和4年1月に開始し、地域医療連携室スタッフを中心に積極的に活動しています。加えて今年度は福岡県支部5病院の協力のもと、北九州豪雨災害被災者へ学習用具の支援も行ないました。



大塚力久協議会会長からは感謝の言葉に加え、「コロナは沈静化に向かっており、行政の生活困窮者支援も目処が減少してきているわけではありません。このような中での済生会の支援は本当に助かります」とのお話がありました。

（地域医療連携室長 浦 正太）

〈愛媛〉松山病院
世界の子どもにワクチンを

NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会（JCV）」の活動への協力に対し、1月4日、JCV事務局より感謝状をいただきました。



当院は2019年12月から院内にペットボトルキャップの回収箱を設置。これまでに約14万8000個（約370キロ）のキャップを集めることができました。

（経営企画室 山中信也）

〈神奈川〉 金沢若草園
クリーニングの現場実習

1月31日～2月2日の3日間、神奈川県立金沢支援学校横浜水取沢分教室の生徒5人が来園し、クリーニング工場での現場実習を行いました。
病院職員のユニホームを業務用ドラム式洗濯機で洗濯後、ハンガー掛け作業や乾燥後の折り畳み作業など、幅広く担当してもらいました。



実習後の感想を先生に聞いてみると、生徒からは「枕カバーのしわのばしが難しかった」「畳みがうまくできませんでした」と話していたとのことでした。
(支援課 日高 純)

〈鳥取〉 境港総合病院
スキルアップ研修会で
チーム成果を発表

1月21日、倉吉市で開催された鳥取県肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会で、筆者(岡野淳一医師)と祖田亜由美看護師が講師を務めました。
当院では、昨年5月から院内肝炎ウイルス陽性者の拾い上げ



に力を入れています。三浦茄純臨床検査技師を加えた3人でチームを作り、院内検査でB型肝炎・C型肝炎陽性となった患者さんを適切な診療につなげる活動を行なってきました。
当日はこうしたチーム内での取り組みを紹介。他院からは電子カルテアラートシステムを利用した活動が多く報告されましたが、当院では電子カルテに頼らず人の手で取り組みを行なっている点が評価され、会場の参加者からも関心を寄せていただきました。
(内科部長 岡野淳一)

長崎病院
35人が永年勤続表彰

2月7日、当院研修室で永年勤続表彰式を行いました。今年度の表彰の対象者は、勤続30年が9人、20年が6人、10年が



20人です。
はじめに、衛藤正雄院長が長期にわたり尽力した職員に感謝の言葉を述べました。会場では職員一人ひとりの名前が呼ばれ、衛藤院長から感謝状と記念品を贈呈されました。
表彰された職員たちは、多く

の年月を捧げてきた病院の中で、それぞれの貢献が讃えられました。会場は拍手とともに温かな

雰囲気になりました。
(経営企画室 河野太祐)

地元FMラジオで当院の魅力をアピール

新潟病院

当院の職員が出演したFM-NIGATA「医療の広場 RADIO「病院Special」」の初回が、1月21日にオンエアされました。

最初の出演者は本間照院長。もうすぐ100年を迎える当院の成り立ちや、新潟市の医療について話しました。

2人目の登場は昨年4月に当

院に着任した小林厚志救急科部長で、新潟市の救急や、救急現場について解説。
3人目の佐藤志津子看護部長は、450人の大所帯の看護部を取りまとめています。看護師の立場から見た救急の現場や、済生会の使命への取り組みについて話しました。

院内の特設スタジオでの公開収録で、リクエスト曲をかけながら、和やかな雰囲気の中あつという間に時間が過ぎていきました。第2回は3月、第3回は5月に放送される予定です。
(総務課 吉川未織)

〈愛知〉三河青い鳥

医療療育センター

「青い鳥神社」で七五三

当センター1B病棟で、11月29日、5人の子どもたちの七五三のお祝いをしました。当日は施設名から名前をとつ



ゼリーをもらい、今後の健やかな成長を祈願しました。他の子どもたちも神社で奉奏される歌舞音楽を流すと、普段と違う静かな雰囲気伝わったようでした。
(保育士 山田静菜)



〔神奈川県〕横浜市南部病院
ハイパフォーマンス
チーム発表！



前月号の本誌（P41）で「もつと知ろう多職種チームとできること」というイベントの開催報告をしましたが、今回はその第2弾です。

イベント終了後、全13チームの活動内容を電子カルテのeラーニングシステムを活用して閲覧してもらい、投票で「ハイパフォーマンスなチーム」を3チーム選出。投票数は予想をはるかに上回る1005票に達し、関心の高さがうかがえました。

栄えあるハイパフォーマンスチームに選ばれたのは「院内迅速対応チーム」「緩和ケアチーム」「小児虐待対応チーム」の三つ。2月6日に表彰式を行いました。対応が速い、成果を上げている、チーム

ワークが素晴らしいなど、多くの感謝と賞賛の声が寄せられました。

〔総合患者支援センター〕
副センター長 嶋中ますみ

2月2日、支部内各施設の管理職を対象にコンプライアンス研修を実施し、奈良病院・中和病院・御所病院・シルバークエアまほろば・支部事務局から計55人が参加しました。

当日は、シルバークエアまほろばの吉井尚施設長が本部コンプライアンス研修の受講について

奈良県済生会
ハラスメント防止に向けて
コンプライアンス研修



報告。続いて、株式会社ナースハートの井上泰世氏は「ハラスメントの防止」管理職としてできること」をテーマに、グループワークを交えながら講義しました。

ハラスメントの発生要因に関する自己診断や職場環境のチェックを行なうとともに、日常の部下や職員との関わり方などを今一度振り返り、ハラスメント防止に向けて再認識する機会となりました。

（済生記者 藤川羽衣）

〔埼玉〕川口総合病院
新館起工式で安全祈願

川口医療福祉センター新館の起工式が1月30日、奥ノ木信夫川口市長をはじめ病院や看護専門学校、建築事務所の関係者34人の出席のもと執り行なわれました。

新館は地上3階建て延床面積は約3600平方メートル。2・3階に川口看護専門学校が入り、1階は病院事務所が入る予定です。

神事では出席者らによる鉄入の儀が行なわれ、原澤茂埼玉県済生会支部長も齋戒を行ない、



当院の看護師不足解消にもつなげていきたい」と述べました。

新館への移転は2025年度に予定しています。

（済生記者 原 衣里奈）

山口総合病院
健康講座を5年ぶりに再開
コロナ5類移行後、5年ぶり

工事の安全と順調な進捗を祈願しました。

神事後の後の直会（なほらい）で、佐藤雅彦院長は「当看護専門学校の卒業生の多くは当院に就職している。きれいな新校舎完成後、さらに多くの学生に来てもらい、



イベントPRのため筆者の加藤主任がロゴを作成

笑って学ぶ ちょっと聞きたい
排泄のおはなし

〔大阪〕吹田病院

1月21日に健康ライブラリーで開かれた「健康医療情報講座」で、当院皮膚・排泄ケア認定看護師の間宮直子副看護部長が、大人用おむつの豆知識とおむつの皮膚トラブル

となる健康講座（第194回）を12月21日に開催しました。

テーマは「新型コロナウイルス感染症対策とインフルエンザ・ノロウイルス感染症対策」。伊藤美登里・感染管理認定看護師が講師を務め、感染経路・潜伏期間・感染対策・嘔吐処理のポイントなど、日常生活に役立つ知識を分かりやすくレクチャーしました。

当日は雪が時折ちらつき冬の訪れを感じる寒い天候でしたが、地域の人々約10人が参加。講演後の「久しぶりの健康講座でうれしかった」「ずっと待っていましたが」といった感想に、心が温まる思いでした。

（地域連携室 副師長 田島ゆかり）

〔北海道〕小樽病院
QCサークルの大会で
審査員特別賞受賞

2月7日に千歳市で開催された「QCサークル北海道大会」に、院内大会で選ばれた3チームが参加しました。

結果は、クリニカルパスチームの「当院の二次骨折予防算定

ブル対策について講演しました。

まず、おむつの種類やサイズ選び、使い方を分かりやすく説明。皮膚のトラブルに関しては保湿の重要性などを話しました。

続いて、えのき訪問看護ステーション管理者の木村節子氏から、おむつの購入に関する医療費控除などについて、また、「おむつが簡易トイレの代わりになる」豆知識などを披露。

最後に、コグニサイズ指導士の茂上さつき氏が、座ったままできる便秘予防の体操を紹介。皆さんと楽しく実践しました。

排泄に関することは相談しにくい内容ではありますが、今回は笑って学べる時間となりました。

（ホームケア支援課主任 加藤尚子 総務課 岡利悟志）



取得について」が審査員特別賞を、5B病棟と放射線チームは優良賞を受賞しました。

審査員の講評では「サークルメンバーの意見交換により対策の検討、実施へつなげられ目標を達成した最優秀事例」などと高評価をいただきましたが、「要旨集や資料づくりには適宜グラフや表を活用すると見やすくなる」など、今後の課題やアドバイスもありました。

スタッフが（新人職員などで）入れ替わる来年度は、初心に戻り新たなスタートを切りたいと思います。目指せ、最優秀賞!!

（事務部 医事課 伝法俊和）



topics

〈滋賀〉老健ケアポート栗東

節分だ！ 皆で鬼退治

2月3日、2階棟の利用者さん約55人を対象に節分のイベントを行いました。
はじめに職員が節分についての小話をした後、皆さんから昔の豆まきの思い出を聞いていると、突然、鬼の姿に変装した職員が登場。皆さんから「おお！」



と歓声が。

豆の代わりに用意していた布製のボールで鬼退治をしました。「久しぶりの鬼退治！」と大笑いする人、「鬼は外！ 福は内！」と鬼に向かって喜々としてボールを投げる人もいて、楽しんでもらえたようです。

最後に、色のついていない鬼のお面に皆さんで色をつけてもらいました。赤や青、他にもさ

まざまな色のお面が出来上がり、皆で見せ合いました。

〈介護福祉士 村田里紗〉

〈大阪〉野江特養城東園

「鬼は外！」はコンプラ違反？

2月3日、入居者さん100人が参加して節分の豆まきを行いました。

職員が変装した鬼に力いっぱい豆を投げる人、豆を投げずに「鬼は外」とやさしく声だけかける人。中には金棒を奪い取り、さらに鬼に襲いかかる人なども



いました。

にぎやかな場の雰囲気や皆さんの笑顔を見ることができました。その後は、豆や恵方巻とはいきませんが、ちらし寿司をおいしくいただき、季節感も感じてもらいました。

鬼に豆を投げることがコンプラライアンス的にかがなものかと言われる昨今ですが、日本の伝統行事として継続してもよいのではないかと思います。

〈係長 佃 一博〉

〈兵庫〉特養ふじの里

鬼退治で1年の福を呼ぶ

2月3日、特養ふじの里西館で節分の豆まきを行いました。鬼を装った職員を入居者さん25人に退治してもらい、今年1年の福を呼び込みました。

鬼がのしのしとユニットに入ってくると、皆さん「わあ、鬼や」と笑顔で迎え入れ、用意した豆（新聞紙を丸めた物）を鬼めがけて「鬼は外！」と鬼退治。鬼の姿となった男性職員を見て、「昔、息子がやっていた」と涙を流しながら思い出話をしてくれる入居者さんもありました。

おやつは鬼の絵柄にデコレーションされたシュークリーム。「かわいいなあ」と、皆さん笑顔でおいしくいただきました。今年も1年、皆元気に過ごせそうです。

〈西館介護課

ユニットリーダー 円口貴美子〉

〈山形〉はやぶさ保育園 心の鬼をやっつけろ！

2月2日、園児125人で豆まきを行いました。今年の節分は、全体で行なう豆まきとしては4年ぶり。3・4・5歳児67人は事前に鬼の弱点を調べ、クラス皆で話し合いを重ねながら、武器作りを進めました。

鬼が登場するや、自分の作った武器を使い、異年齢児で協力しながら鬼に立ち向かっていきました。無事に鬼退治を終えると、満面な笑みを浮かべる子どもの姿も！ 果敢に鬼と戦う子どもたちの姿は、とても頼もしく見えました。

今回の豆まきを通して、泣き虫鬼、暴れん坊鬼など、心の鬼を倒せた子が多くいたようです。最後は、鬼と仲良くなり、鬼と



触れ合いながら記念撮影を楽しみました。

〈済生記者 齋藤里奈〉

〈埼玉〉川口総合病院

大号泣の豆まき大会

2月2日、当院内の保育室・なでしこ保育園で豆まき大会を行いました。



鬼役は、人事・総務課の鈴木翔真さん。全身鬼の格好をして登場した鈴木さんが、16人の子どもたちは豆の代わりにボールを一生懸命投げますが、鬼役のプロは、簡単にはやられませんが、「おにはーそとー!! うわーん!! (大号泣)」

小さい子クラスの園児たちは全員大号泣。ようやく鬼も堪忍し(皆へトへト)、子どもたちとハイタッチで和解しました。最後の集合写真撮影の際、鬼の雰囲気はまだ漂わせていたのか、小さい子クラスの園児たちはまたもや大号泣……。皆、健やかに大きくなあれ。

〈済生記者 原 衣里奈〉

長崎病院

14人の可愛い福の神

2月2日、当院の託児所で恒例の豆まきをしました。

年明けに福笑いをして各自のお面を作成。自慢のお面をかぶった14人の可愛い福の神たちが「鬼は外！ 福は内！」と豆まきの練習をしていると、気合の入った赤鬼が登場。お部屋は一瞬で大パニックに！



皆と食べると楽しいね！ 介護予防教室ランチ

〔新潟〕 特養長和園

当園が地域貢献活動の一つとして運営する A O Z O R A 介護予防教室では、2月16日に「おとな食堂ランチ」を開催し、15人が参加しました。始めた当初は月1回、10食限定としていましたが、好評のため15食に増やして開催しました。

当日は、体組成測定と健康栄養情報講座を終わってからランチタイム。メニューは「生姜ご飯、具沢山汁、蒸し鶏のサラダ、デザート」です。参加者から「生姜ご飯の作り方は？」と声上がり調理師が丁寧に教える場面



もあり、和やかな食事時間となりました。「ここで皆と食べると楽しいね」「おいしかった！ 次回も楽しみです」とのうれしい声も。次回は3月27日、春休みの「おとな・こども食堂ランチ」を開催予定です。

（済生記者 西川まゆみ）

エアーマット10台を社協に寄贈

〔鳥取〕 境港総合病院

新機種の購入によって余剰となったエアーマット10台を、1月17日、境港市社会福祉協議会に寄贈しました。

「どこか使えるところはないか」と、褥瘡委員会から地域医療総合支援センターに相談したところ、大田麻紀・副センター長兼副看護部長からぜひ欲しいと応答があり、話がまとまりました。寄贈を受けた社会福祉協議会の佐藤郁雄会長は、「寄贈していただいたエアーマットは、地域の福祉推進のため、活用させていただきます」と感謝の言葉



を述べました。

今後、境港市社会福祉協議会を通して、希望のあった関係各所に提供される予定です。

（済生記者 亀尾美子）

音楽のチカラってすごい

〔神奈川〕 わかくさ保育園

1月23日、当園で子育て支援教室「ミュージックケア」を開催しました。

講師は音楽療法士の泊知佳さん。未就園児親子5組と0・3歳の在園児22人、さらに近隣施設の高齢者3人が参加しました。子どもも大人も講師の歌声や馴染みの曲が聞こえてくると、自然に体を揺らしたり、手をた



たいたりしてたちまち笑顔に。鈴やスカーフを使った音楽遊びも魅力的で、ワクワクが止まらない子どもたちです。新聞紙を使った遊び「幸せな手をたたこう」では、クラシック曲をBGMにしてピリピリと思いきり破いた紙を、最後に皆で一斉に投げ上げて終了。新聞紙がヒラヒラと舞い降り積もる面白さは、子どもたちにとって最高だったようです。

（済生記者 本倉美穂）

自販機補充で就労実習

〔神奈川〕 金沢若草園

当園では令和4年5月から、東京キリンビバレッジサービスの協力ののもと、就労継続支援の作業実習として園内の自動販売機の商品補充を行なっています。自販機内に残っている商品を一たん取り出して消費期限を確認し、後に補充分を加える「先入先出法」の手順で自販機内に補充していきます。

また、消費者の購入意欲を高めることも、自販機運用の重要なポイントです。季節の雰囲気を出すためにクリスマスなどのデコレーションを考えたり、自分たちの思いを込めたデザインを制作したりしています。

（支援課 日高 純）

施設や公益的活動についてラジオで発信

〔栃木〕 特養とちの木荘

1月23日、当荘の川上藍美生活相談員と大嶋小貴子介護支援専門員が、地域コミュニティFM「ミヤラジ」の福祉番組「ハートプログラム」に出演しました。



さらに、「地

この番組は、地域における公益的活動「いちごハートねっと事業」に参画する県内の社会福祉法人の職員がゲスト出演し、施設や社会貢献活動について紹介するものです。

当荘は過去2回、番組に出

（済生記者 川上藍美）

中学生240人にがん教育

〔大阪〕 吹田病院

がん教育外部講師派遣事業の一環で、12月8日、当院の吉川卓郎消化器外科長兼がん診療支援センター科長が豊中市立第十八中学校の全校生徒241人に講演しました。がんについての正しい知識を身に付け、がん患者への理解を深めることが目的です。

テーマは「がん教育 乳が

域における出張相談会」や「地域薬局で実施するいちごカフェ」など、地域における公益的活動の報告や今後の展望にも言及。施設の魅力を広く地域に発信する貴重な機会となりました。

んを通して学ぶ、がんのこと。がんの予防に大切なのは健全な食生活で、国が推奨している対策型検診や自己検診（セルフチェック）が早期発見のために重要であることなどを伝えました。

生徒たちは熱心に吉川科長の話を聞き、特に乳がんは女性だけでなくごくまれに男性にも発生することに驚いた様子でした。

（がん診療支援センター 鮫島正俊）



〔大阪〕野江特養城東園
バレンタインデーに
おやつレクリエーション

2月14日、おやつレクリエーションとして2階食堂に喫茶店をオープンし、約50人の入居者さんが来店しました。デザートはチョコババロアにイチゴ味かミルク味のホイップクリームを選んでもらいトッピング。飲み物は、ホットはコーヒー、ラテ、紅茶、日本茶、それにアイステイも用意しました。



音楽をかけ、春らしいお花を卓上に飾り、オープン看板、メニューボードも用意。手作り感満載の喫茶店では私服にエプロン姿の職員が「いらっしやいませ」と元氣よく出迎え、普段は使わない陶器の食器を小花のかわいの手作りランチョンマットの上にセッティングすると、一瞬で華やいだお顔に。職員にとっても楽しい時間となりました。

〔介護職 安東真紀〕

〔鳥取〕境港総合病院

救急搬送症例検討会に18人

2月6日、境港消防署との救急搬送症例検討会を当院会議室で開催しました。

当日は消防署から6人、当院から12人（医師6人、看護師4人、事務職員2人）が参加。救急隊から症例の発表があり、症例ごとに熱のこもった質疑応答が行なわれました。

その後の意見交換では、佐々木祐一郎院長が「当院では脳外科の常勤医が不在でしたが、来年度から脳外科医が常勤となるため、頭部外傷への対応の幅が広がります」と説明。救急隊か

ら「頭部外傷による救急要請は多いので心強いです」との言葉をいただきました。

〔済生記者 亀尾美子〕

〔三重〕松阪総合病院

松阪マラソンにブース出展

12月17日に開催された「みえ松阪マラソン」の健康イベントに、当院としては初めてブース出展を行ないました。

「足から健活！ ～100歳まで自分の足で～」というコンセプトで行なわれた松阪マラソン。足の筋肉痛や巻き爪、ス

なったわ！」「聞かせてもらってよかったわ！」と笑顔で話す方が多く、当院を知ってもらうよい機会となりました。

〔医事課 森本輝紀〕

〔埼玉〕加須病院

認定看護師の取り組み・知識を地域で共有

当院初の「さいさばカンファ



トレッチ、スキンケアなどの相談をメインに、競技者だけでなく親子連れや友人同士など約220人が相談会に足を運んでくれました。



海保巡視船に
医務官として乗船

福岡総合病院

当院救命救急センターの友田貴博医師が、12月26日から1月29日の35日間、海上保安庁の巡視船「やしま」の海外派遣に「医務官」として乗船しま

ランス」を1月12日に開催しました。認定看護師の取り組みや知識などを医療関係者と共有し、地域医療の発展につなげることを目的です。

当日は近隣の医療機関を含め27人が参加。新井博美感染管理認定看護師による「コロナ禍で体験した感染対策の難しさ」、金子京子が「がん性疼痛看護認定看護師による「終末期における療養先を考える」ある一事例を通して」の二つの事例発表の後、ディスカッションを実施しました。

参加者からは「感染対策や緩和領域でジレンマを抱えることがあったので参考になった」などの声がありました。

〔済生記者 蓬田絵里子〕

した。

海上保安庁は東南アジア周辺の海域における海賊対策として巡視船を派遣しており、「やしま」の派遣は2015年以來8回目となります。

友田医師は乗務員の健康管理、突発的な病気・けがの治療に従事。「船酔いがつらかったのは忘れられませんが、規律の厳しい船内での生活も含め、貴重な経験ができました。今後いろいろな場面で救急医として役に立てるよう、このような機会があれば積極的に参加したいです」と笑顔で話してくれました。

〔経営企画課 木下昌子〕

山形済生病院

院内学会に59題の発表

各部署で行なっている取り組みや成果を発表する場として、2月13日から3月1日まで、院内学会を開催しました。

発表内容は、研究成果、チーム医療、患者サービスなどさまざま。今年度は業務の効率化、待ち時間対策、災害対策などのテーマがありました。

発表内容はポスター資料にまとめて掲示するほか、院内の共



有フォルダからも閲覧できます。ちょっとした改善の取り組みは、A3シートにまとめて発表することも。

職員全員が審査員となり、優れていると思う演題3題に投票します。職員の投票数によって決まる賞のほかに、院長賞、TQMセンター長賞があり、毎年大接戦となっています。院内学会を通して、各部署の取り組みを院内に広く周知することができ、部署間の理解を深め、モチベーションアップにもつながっています。

〔済生記者 柏倉汐里〕



相談等も入院前から行なえるよう多職種が介入する仕組みを整えていきます。
(済生記者 酒井あい)



〈神奈川〉金沢若草園 保育士養成の 施設実習に配慮

2月5〜19日の11日間、総合学園ヒューマンアカデミー横浜校の実習生2人を受け入れました。

彼らは、生活介護が行なっている創作活動や昼食の配膳準備、就労継続支援B型が担当しているクリーニング作業、ポ

ールベン組立作業、就労継続支援A型が担当している病院向けユニホームの出荷作業など幅広く経験しています。

「座学で学んだことと現場との違いが認識できた」「施設実習が楽しい」と話す実習生。実習期間も後半になると、利用者さんから話しかけられ、寄り添う支援ができるようになってきました。
(支援課 日高 純)

〈福岡〉大牟田病院 セラピスト研修会で講義

2月8日、県理学療法士会の若手リハビリセラピスト向け研修会で講師を担当しました。

当日は、7施設から30人(当院からは新卒スタッフ4人)が参加。テーマは「変形性股関節症と人工股関節全置換術のリハビリ戦略」で、プレゼンテーションから実技演習ま



での指導を行ないました。コロナ禍では実施できなかった対面での講義・実技演習は、久しぶりの感覚であり、新鮮に感じました。
また、病院・施設の枠を越え

た場でアウトプットする機会となり、それぞれの経験を重ね合わせ、これまでの反省や今後の方針を検討するなど、貴重な経験となりました。
(リハビリテーション部 科長 稲吉直哉)

静岡済生会総合病院 入院支援センターを移転 「患者サポートセンター」へ

2月1日から、北館1・2階の入院支援センターを西館1階に移転し、名称を「患者サポートセンター」に改名しました。

患者サポートセンターでは予定入院の患者さんに対して、外来診察室で受けた治療・検査内容の確認や、入院生活・療養上の注意点等の説明を行ないます。また、今回の移転に伴い、同センターには管理栄養士が常駐することになりました。これから入院する患者さんに対して、アレルギーや食形態の確認、食事に関する心配ごとの相談、栄養指導など栄養面のサポートもワンストップで行なえるようになります。
今後は薬剤師による服用中の薬の確認や休薬指導、医療費の

〈滋賀〉栗東市葉山地域包括 支援センター 救命救急講習に40人

湖南広域消防局と中消防署の救命救急課職員4人を招いて、12月14日、高齢者の支援にあたる職員向けに救命救急講習を実施しました。

当日は栗東市内居宅介護支援



事業所の介護支援専門員、市内地域包括支援センター職員、市長寿福祉課職員など約40人が受講。

講義だけでなく実技指導の時間も設けられ、主に胸骨圧迫の手法、AEDの取り扱いについて全参加者が実践する機会を

〈大分〉日田病院 ロータリークラブで 院長講演

日田ロータリークラブの例会が1月10日に開催され、林田良三院長が「超高齢社会と医療・済生会とは」というテーマで講演を行ないました。

講演を終え、会員からはこの地区の超高齢化の現状、33年前に市民活動で誘致された日田病院の歴史、二次医療圏における唯一の公的病院としての役割だ



けでなく、厳しい経営状況と行政からの補助金の必要性などについて、非常に理解が深まったとの意見をいただきました。
(事務部長 平田勝基)



2施設コラボで医療職紹介のビデオに出演

〔広島〕老健はまな荘・香川県済生会病院

【はまな荘】昨年5月、医療職等を養成する穴吹カレッジグループが制作する医療職紹介ビデオに、各職種に出演してもら

えないかとの依頼が旧知の動画制作会社からあり、多くの卒業生が勤務する香川県済生会病院を推薦。はまな荘とともに2施設で協力をしました。

【香川県済生会病院】当院からは医師をはじめ看護師、コメディカル合わせて総勢13職種が出演。10月中旬の4日間にわたり撮影しました。撮った映像はすぐに大きな画面で確認し、普段の業務をどうしたらよりリアルに伝えられるかを職員同士で真剣に考え、積極的に意見を出し合いました。

カメラマンは撮影を予定していかなくても、職員が電話をしている様子などシーンを見つけてはこっそりカメラを回していました。「良い瞬間を絶対に逃さない」プロの仕事ぶりに感服しました。

【はまな荘】香川県済生会病院に在籍のない介護福祉士のパートは、はまな荘で担当。11月1日の撮影当日、出演を予定していた利用者さんの1人が何度起こしても起きてくれない



香川県済生会病院では、理学療法士他13職種を撮影

ハプニングがありました。急きよ別の利用者さんをお願いし、無事撮影を終えました。皆緊張することもなく、普段の様子を淡々と撮影してもらったことができました。

介護施設での人材確保は特に重要な課題です。この紹介ビデオから介護の仕事の魅力が伝わら、介護福祉士の志望者増につながることを期待しています。当荘でも今回撮影した動画に新しい動画を加え、リクルート用ビデオの作成を検討中です。

（老健はまな荘 済生記者 佐藤聡、香川県済生会病院 済生記者 西山汐里）

熊本県地域生活定着支援センター

刑余者支援の専門研修で関係機関との連携を実感

2月8・9日の2日間、佐賀市のホテルグランデはがくれで全国地域生活定着支援センター



による専門研修会が開催されました。

1日目はNPO法人「抱撲」の奥田知志理事長による基調講演で、約200人が聴講しました。2日目は関係機関によるグループワークに参加しました。

知症の世界へ」と題し講演を行いました。

三石副院長は35人の参加者を前に「認知症は誰でもなりうるもので、認知症患者さんは新しい世界で努力しながら生きていく。患者さんから見える世界を理解して接することが大切」と強調。参加者からは「認知症に対する考え方が変わった」との意見も出ました。

講演の最後には「誰一人取り残してはいけない、一緒に生きていくというソーシャルインクルージョンの理念が済生会の目指す姿」と話し、終了後も参加者からの質問に丁寧に答えていました。

（済生記者 松岡亜希）



岡上武名誉院長に医療功労賞

第52回医療功労賞の近畿地方医療功労賞者の表彰式が1月24日に行なわれ、得津馨近畿厚生

局局長から当院の岡上武名誉院長に賞状と記念品が授与されました。

受賞者5人を代表して、岡上名誉院長は「私とともに表彰された近畿地区4人の医師が今後

刑余者支援は、地域生活定着支援センターだけの支援では成り立ちません。多くの関係機関に協力を得ることでようやく成立するのだと痛感しました。また、刑余者支援に関わっていることで、職員も孤独を感じることはありません。今回の専門研修に参加することで、さまざまな機関の方が、多角的な視点から関わってくれているということを改めて実感しました。

（相談員 西村悠香）

（大阪）吹田病院

テーマは「骨粗しょう症」市民公開講座に84人

2月7日、当院3階多目的ホールで市民公開講座「イチから分かる！骨粗しょう症市民公開講座」を開催し、84人が参加しました。

本講座は骨代謝センターの多職種による講演の3本立てで、まず笠原文子医師の「知っておきたい骨粗しょう症の話」で骨粗しょう症とは何かを分かりやすく説明。次に室市悠看護師が「今日からもぐもぐ骨に必要な栄養素」と題し、カルシウム・ビタミンDの紹介とともに日光浴やバランスのよい食事の大



切さについて伝えました。「毎日骨骨（コソコソ）！転ばない身体づくり」では内海綾乃理学療法士が毎日できる骨骨（コソコソ）体操を実演し、参加の皆さんも一緒に行ないました。

（済生記者 荒木愛美）

（福岡）飯塚嘉穂病院

ようこそ認知症の世界へ

西日本新聞社が主催する市民医療講座が1月13日、飯塚医師会館・講堂で開催され、当院の三石敬之副院長が「ようこそ認



福岡総合病院
水谷内科部長がテレビ出演

KB C九州朝日放送「とっ
ても健康らんど」に当院消化管
内科の水谷孝弘主任部長が出演
することになり、2月9日に当
院で番組収録がありました。
テーマは「逆流性食道炎」。
胃酸が食道に逆流することによ



って食道に炎症を起こす病気で
す。番組リポーターの岡本啓さ
んは、以前から胸やけや痛みな

〔三重〕明和病院
「脳卒中をやっつけろ！」
認定看護師による講習会

院内の1・2年目看護師を対
象に、12月14・21日の2日間、
脳卒中認定看護師の畑中佑介さ
んが、講習会を行いました。
テーマは「脳卒中をやっつけ
ろ！ 脳卒中の治療と予防につ
いて」で、計19人が参加しました。



講習会は写真や動画を交えた
参加型のスタイルで進行し、参
加した看護師はメモを取りなが
ら熱心に聞いていました。
終了後、「脳卒中の治療方法
や解剖について再学習できた」
「脳卒中の早期発見につながる
と思った」「看護のポイントや
観察のポイントが分かりやすか
った」など、積極性のある感想
がたくさんありました。
(看護師長 堤 容子)

〔和歌山〕特養潮光園

復活!!
インターシブ制度

当施設は新型コロナ対策とし
てしばらくの間インターシブ
プの受け入れを中止してしまし
たが、1月24・25日、3年ぶり
に制度を復活させました。
参加者は有田中央高校の福祉
科1年・田中美波さんと、総合
学科1年・森川亜美さんの二人。
主に現場での実習に取り組んで
もらいました。

想像と大きくかけ離れたハー
ドな実習に、ぐったりと疲れた
様子の二人でしたが、「手話が
できれば耳が不自由な相手に気
持ちを伝えられるのに……」お

〔事務責任者 山崎良彦〕

話をして利用者さんに笑っても
らうと、こちらも楽しくなりま
した」といった声も。介護にお
ける「厳しさ」と「楽しみ」を
見出せたようです。

山口総合病院

共に学び連携を深める場に

第47回地域連携セミナーを1
月11日に開催し、当院の藤本美
智代救急部部長（クリティカル
ケア認定看護師）が「実践でき
る応急手当もしもの時の救命
処置」と題して講演しました。
当日は、訪問看護ステーション



〔山口〕下関総合病院
新たな冠動脈治療
「エキシマレーザ」導入

冠動脈疾患の新たな治療法で
ある「エキシマレーザ」冠動脈
形成術（ELCA）を、昨年
11月17日から導入しました。

既に運用中の、血管壁にでき
た固いプラークを削り取るロー
タブレーターとは異なり、特殊
な光（エキシマレーザ）を使
って柔らかいプラークを削り取
ることができます。別名クル
レーザとも呼ばれ、周囲の
健康な組織に熱損傷を起こさず
安全な治療ができます。

これにより、手術が困難だっ
た症例や、十分な治療ができな

った症例に対し、よりよい治療
成績が期待できるようになりま
した。

〔循環器内科長 山田寿太郎〕

大盛況の医師同窓会

1月20日、4年ぶりに懇親会
の食事提供を含めた対面形式で
医師同窓会を開催しました。参
加者は院内外医師計111人
を数え、準備した院内会場が狭
く感じるほど超満員となる大盛
況の会となりました。

〔海老原全院長から現状報
告、副院長3人から救急診療部
門紹介と最近の麻酔管理の説明
2022年3月に導入された手
術支援ロボット「hinotori」の
経過報告がありました。同窓会
員の先生方は真剣に説明に聞き
入っていました。〕

その後場所を変えて、第2部
の懇親会。日頃厳しい顔で診療
にあたっている先生方も料理を
囲み、懐かしい先輩医師とこ
やかに熱く長く語り合っていま
した。

〔事務次長兼総務課長
鈴木 寛〕



topics



もの。
 当院が主催し、鶴見区災害医療連絡会議や下末吉地区自治連合会、横浜市医師会聖灯看護専門学校などが参加。協力・関係機関を含めると300人規模の訓練になります。
 当日は一つのシナリオをもとに、同時並行で複数の会場で訓練を実施し、その様子はテレビ神奈川のニュースで放送されました。

(済生記者 荒木愛美)

「再確認 しないで後悔 して安心」 年間標語に決定

奈良病院

2024年度の医療標語が昨年10月頃に決定しました。86件の応募の中から全職員の投票で選ばれたのは、医事課・田邊宏美さんの「再確認 しないで後悔 して安心」。

4月〜翌年3月の1年間、各部署に掲示し周知します。医療事故防止対策委員会が「年間標語」を決定する活動は今回で12年目。周知することでインシデント発生を防止し、患者さんに安心した医療・看護を提供できます。

ちなみに2位は「思い込み その判断が 事故のもと」(西川崇宣課長代理)、3位は「忙しい そういふ時こそ 一呼吸」(藤野圭司さん)で、3位まで医事課が独占。1月15日、久永倫聖院長から賞状と副賞の



〈滋賀〉看護小規模多機能型
 居宅介護事業所などでしご草津
おにぎりバイキング

1月16日、訪問看護の利用者さんから分けていただいたお米で「おにぎりバイキング」を開



催しました。

手際よくおにぎりを握ってくれたのは、かつてのベテラン主婦である利用者の皆さん。「手袋だとうまく握れないわ」「昔はよく作ったのね」「子どもはよく作ったのね」「子どもはよく作ったのね」とおにぎりにして仕事に行ってたわ」など、昔話も交えながら和気あいあいと握ってくれました。

握った数は一人10個以上。おいしそうなおにぎりがたくさん並んだので、昼食はおにぎりやおかずの中から好きなものを選ぶバイキング形式にしました。おかずの中には秋に収穫し煮付けにした芋のツルもあり、手作り感満載のお昼となりました。

(管理者 石原 仁)

「いきいき100歳体操」 の運動効果を実感

〈山形〉特養愛日荘

済生会愛らんど地域包括支援センターでは、地域住民の介護予防と健康づくりを応援するために、「愛らんど健康講座」を開催しています。最終回(第6回)となった12月13日の講座には13人が参加。今や全国区とな

った「いきいき100歳体操」をもっと効果的に実施できるように、山形市から介護予防作業療法士を招き、実践を交えながら教えていただきました。

(副主任保健師 富士尚美)

〈神奈川〉横浜市東部病院
**鶴見区災害医療訓練が
5年ぶりに 300人参加**

2月4日、鶴見区災害医療訓練を5年ぶりに実施しました。本訓練は「東京湾北部を震源とするマグニチュード7・3の首都直下型・区内最大震度6強の地震発生」(今回は新興感染症の発生等も含む)を想定した



商品券が贈られ、記念撮影を行いました。
 (医療安全監理室 長澤忠子)

〈埼玉〉川口総合病院

不審者トラブル対応訓練

2月9日、刃物を持った不審者に対応する訓練を病院外来ロビーで行ない、職員16人が参加しました。

近隣の病院で男性容疑者が医師らに発砲する事件が昨年あったことを受け、川口警察署の協



力で実施しました。訓練では不審者役が、総合受付で病院長にアポなしで会わせると大声でしつこく要求。受付職員が机下の非常ボタンを押すと、不審者役が刃物を取り出したところ、110番通報します。患者さんや職員の避難導線なども確認しながら進めました。終了後、川口警察署の稲沢慎司生活安全課長からは「対応時不審者と距離を取り、通報も相手が見られない位置で、刃物などを相手を取り出した時点で大声で叫んで周りに知らせること」などの実践的なアドバイスをいただきました。

(済生記者 原 衣里奈)



〈神奈川〉金沢若草園
グループホームで避難訓練

昨年12月19・25日、当園が運営するグループホーム「キンモクセイ」と「ゆず」の2棟で避難訓練を実施しました。

当園でのクリーニング作業や組み立て作業などの就労継続支援が終了し、グループホームに帰宅後に火災や地震が発生した



と想定。両日とも利用者6人・職員4人の計10人が参加しました。

当日は、火災での煙を避けるよう低い姿勢を取りながら階段を降下。玄関脇に設置した避難用リュックを携行し、全員がグループホームの外に退避したことを確認後、指定避難場所に避難するまでの手順を確認しました。
(支援課 日高 純)

〈大阪〉中津病院

高校生へ「がん教育」
予防や食事等について講義

当院としては3回目となる「がん教育」を、1月5日、ルネサンス大阪高校の3年生約20人を対象に行ないました。

講師は、当院呼吸器外科部長・がん診療支援センター長の内野和哉先生。今回は事前に質問を集めてもらい、質問に回答しながら授業を進めました。

がんの予防や食事についての質問のほか、医師という職業に対する質問もあり、内野先生が医師を目指したきっかけを話していたのが印象的でした。

教師の方からは「がん検診を受けます」という言葉をいただく

けました。
(がん診療支援センター事務局 係長 浦田亜紀子)



〈滋賀〉老健ケアポート栗東

言葉の力で三方よし！

相手を励ましたり鼓舞したりするベップトーク普及協会認定スピーカーであり、アンガーマネジメントファシリテーターとしても活躍する安岡寛先生を招いて、1月18日、研修会を開催しました。

接遇研修の一環で、参加者は24人。昨年のWBC決勝の大谷翔平選手の「憧れるのをやめましょう」を例に、ベップトークで自分自身にエールを送る方

法などを学びました。

アンガーマネジメントについても、怒るべき場面では上手に怒り、怒る必要のない場面では怒らなくて済むようにすることが大切だと学びました。

参加者からは「もっと詳しく聞きたい」「自分を励ます言葉を作ろうと思う」などの感想がありました。

(サービスイノベーション委員会

宮武 恵)



〈愛媛〉松山老健にきたつ苑
小学校で介護体験教室

松山市沖の興居島小学校の



3・4年生12人を対象に、昨年10月12日、当苑から5人の職員が出張して介護体験教室を行ないました。

高齢者疑似体験では重量のあるベストに「重たい！」と元気な声を上げたり、疑似視覚障害ゴーグルを付けて「変な見え方」と不思議そうにしたり。また、片麻痺疑似体験では装具を身に着け動かない手足を無理やり動かそうとするなど、子どもたちの反応はさまざま。車椅子体験では「障害物にぶつかると宿題が増えます」などと冗談を交えながら、楽しく体験できるように心がけました。

あつという間の2時間でしたが、子どもたちからは「大変だなと思った」「お年寄りの気持ちがかかった」などの感想がありました。

(主任介護福祉士 牧野智光)

済生会肝臓共同研究グループ

済生会ホームページに
SLSGの活動が掲載

本年の第1回の全国済生会肝臓共同研究グループ(SLSG)幹事会が1月6日、オンラインで開催されました。幹事および

研究代表者14人が参加し、各研究課題の進行状況の説明と学会や専門誌等での発表計画などが検討されました。

また、SLSGの活動が済生会ホームページの「専門的活動グループ」ページにトップボタンとして掲載されたことが報告されました。



(岡山済生会総合病院 内科主任医長 川上万里)

〈北海道〉小樽病院

ミドルマネージャー研修に
34人

1月20日、ミドルマネージャー研修をオンサイト(対面)で開催し、医療技術部・看護部・事務部の係長や主任ら34人が参加しました。

はじめに、和田卓郎院長が当院の理念や事業戦略ビジョンの解説をし、続いて人事労務管理の基礎や管理職の役割、そして最近の話題について講義を実施。最後に職種混合で5グループに分かれグループワークを行いました。

テーマは「残業時間の削減の取り組みについて」。他部署の



時間外労働の現状を共有すること、また可能な限りタスクシフト・シェアができればよいものを見つけてその実現につなげていくという趣旨で実施しました。

この3年間、研修といえはオンラインだったこともあり、オンサイトの方が圧倒的に意見交換しやすかったという意見が多数寄せられました。

(済生記者 松尾寛志)

屋内退避施設稼働訓練

〈鹿児島〉川内病院

2月10日、鹿児島県で実施された原子力災害訓練に合わせ、当院でも屋内退避施設稼働訓練を実施しました。屋内退避施設とは、原子力災害時に早期避難が困難な傷病者を4日程度退避させることができる施設で、薩摩川内市では川内原発から30キロ圏内（UPZという）に位置する公共施設や医療・福祉施設に多数整備されています。



当院の屋内退避施設では、イスラエル製フィルターユニットにより放射能汚染された外気を取り込み浄化。施設内は陽圧化され、外気侵入を防ぐ仕組みになっています。訓練には各部署からの代表約30人が参加。県の原子力緊急事態宣言を受けて、屋内退避施設の稼働、稼働後の状態確認、復旧までを行いました。
（施設整備課 古川 大）

〈神奈川県〉横浜市東部病院
クラウドファンディング達成！
新生児用人工呼吸器更新

昨年11月から約3カ月にわたり実施していた「NICU（新生児特定集中治療室）を対象にした新生児用人工呼吸器2台更新費用」のクラウドファンディングを、目標金額2000万円を超えて達成することができました。

当院は地域周産期母子医療センターの一つとしてNICU6床を備え、26週以降の小さく生まれた赤ちゃんが入院します。肺の機能が未熟な赤ちゃんにとって、呼吸を助ける人工呼吸器

祝！新生児用人工呼吸器更新のクラウドファンディングを達成いたしました

ご支援・ご声援をいただいたすべての皆様へ心より感謝申し上げます。

ご寄付総額 21,933,220円
ご寄付者 延べ 578名

感謝に生かす。一人ひとりの小さな命を守り続けるために

Thank You

は重要な医療機器です。当院では年間30〜40件の赤ちゃんに人工呼吸器を使用し、小さな命を救っています。

いただいたご支援をもとに機器更新を進め、これからも一人でも多くの赤ちゃんを救い、ご家族を支えていきます。

（済生記者 荒木愛美）

奈良病院

県立医大生が病院見学

県立医科大学が実施する「奈良学」の授業の一環で、同大医学科学生5人と看護学科学生5人が、1月31日に当院を見学に訪れました。

はじめに、久永倫聖院長が奈良県の医療構想や当院の役割、済生会の組織について、看護部から看護方針や教育、地域活動などについて話しました。その後は医学科と看護学科に分かれ、各部署から医療・看護の特徴などを説明しながら院内を回りました。

将来在宅看護に携わりたいという看護学生は訪問看護ステーションに関することやチーム医療についての質問を、医学科学生は在宅診療に関する質問をし



ていました。

2時間半という短い時間ではありましたが、地域の病院の現状や済生会を知ってもらおうことができました。

（副看護部長 小田和加）

〈東京〉向島病院

職員皆で認知症マフ作り

当院では、昨年11月に認知症看護認定看護師の松野芳師長が認知症マフの導入を提案。塚田信廣院長・佐久間あゆみ看護部



認知症マフとは、触ってもらうことで認知症患者さんの不安をやわらげ、落ち着けるようにする筒状の編み物

長も賛同し、院内に広く周知啓発を行いました。

5人の職員が手を挙げてくれ、12月末頃、手作りの認知症マフが八つ出来上がりました。

上の写真の通りさまざまなかや形で、飾りもマフの内側や外側にたくさん付いており、誰もがつい触りたくなります。早速使用を開始し、患者さんのもとの活躍しています。

（済生記者 加藤健志）

岡山済生会総合病院

認知症マフでやすらぎを

当院では、昨年10月から職員やボランティアが認知症マフを手作りし、希望する患者さんにお渡ししています。認知症マフは毛糸で編まれた円柱型のニット小物で、認知症の人が筒の中に手を入れたり、付属の飾りを触ったりすることで、心身の緊張がほぐれ安心感が得られるといわれています。

例えば、ベッド柵に点滴ルー点をくくりつける行動が見られた患者さんに試したところ、「温かいから（マフを）つけて」と自ら腕を出してくれるように、点滴ルートから注意をそらす効



果があるようです。

色とりどりの柔らかいマフは、患者さんやそのご家族、そしてスタッフをも優しく癒やしてくれます。（済生記者 高畑貴子）

〈山口〉豊浦病院

「認知症マフ」って何？

顔の見える関係づくりを目的に、第6回豊かなまちづくりセミナーを1月11日に開催し、地域の医療・介護関係者20人が参加しました。

今回のテーマは「認知症」。当日は当院の認知症認定看護師3人による講義に続き、グループディスカッションを実施しま

した。松岡一子看護師長の講義では、実際に当院看護部が作成した「認知症マフ」を取り上げました。

認知症マフとは筒状のニットの編み物で、認知症高齢者が触れることで安心感が得られるなどの効果が期待できます。

参加者は「認知症マフのことを初めて知った」「デイサービ



スで利用者さんと一緒に編むといったコミュニケーションもあると聞いたので、今度試してみたい」との感想を述べていました。

（済生記者 西田千鶴）



壁貫通前



貫通後

当院の検体検査室は横に細長く、動線分析を行なったところ「部署間の移動距離がある」「検査室、採血室、採尿室の動線が

働き方改革も見据え検体検査室を改修

ために必要な課題点も発見されました。各班での検討内容を発表し、情報共有することで新たな気付

〈茨城〉水戸済生会総合病院

長いなどの状況が明らかになりました。そこで昨年12月、検体検査室に「検体前処理分注装置」と「搬

きもあり、改善策を検討する有意義な時間となりました。
(事務部 青木那奈)

看護職員対象のメンタルサポート研修
看護職員を対象とした県主催のメンタルサポート研修が昨年12月26日、当院大会議室で実施されました。この研修は、コロナ禍の長期化により業務量や心理的負担の増大が慢性化した状況にある看護職員が、心のバランスを保ち、適切に

〈山口〉豊浦病院

川崎智章臨床検査科長は「築40年弱の検査室の改修工事を初めて行ないました。今後医師・看護師のタスクシフト・シェアに備えるための臨床検査科の地固めの一つです」と意欲を示しました。
(済生記者 今野正俊)

継続した看護の提供ができることを目的としています。当日は看護師長、副師長を中心に23人が参加。山口県公認心理師会・杉浦高仁理事をお招きし、研修後は希望者による個別相談を行ないました。「ストレス対処法についていろいろと聞くことができた」「自分が健康でなければスタッフをしっかりと受け止められないことを再認識した」と参加者には好評でした。
(済生記者 西田千鶴)



〈鳥取〉境港総合病院

開院63周年記念式典

開院63周年記念式典を1月11日に当院会議室で挙行し、併せて鳥取県支部主催の功労表彰・永年勤続表彰式を行ないました。式典では冒頭、佐々木祐一郎病院長が能登半島地震で亡くなった方にお悔やみの言葉を申し上げた後、地域医療を守るため今日まで当院を支えてきた先人や先輩たちの意志をしっかりと引き継ぎ、感謝の気持ちを持って行動するよう話しました。続く表彰式では、永年にわたり地域医療に貢献された33人と3団体が対象となり、稲賀潔支部長からお祝いの言葉と花束が贈られました。
(済生記者 亀尾美子)

京都済生会病院

近畿ブロックMSW等研修会

1月20日、近畿ブロックMSW等研修会を当院で4年ぶりに開催し、53人が参加しました。はじめに、宮部剛実事務部長が当院の取り組みについて報告

続いて、長岡京市健康福祉部地域福祉連携室の田端聖恵室長、林田文晴主任相談員が「長岡京市とりこほさない支援体制整備事業」について講演しました。京都府下では長岡京市のみが重層的支援体制整備事業に取り組み、当院MSWも参加する「とりこほさない支援を考えるプラットホーム」を展開しています。参加者はこのような取り組みは大変参考になるとの感想を述べました。グループ討議では、自治体による差や支援のタイミングの難しさなど、時間ギリギリまで活発な意見交換が行なわれ、有意義な研修になりました。
(福祉相談室 係長 田島佳織)



机上訓練でBCP検証

管理者や役職者を中心とした15人が参加し、1月31日、当施設で策定した事業継続計画書(BCP)に基づき机上訓練を実施しました。今回の訓練は、震度6強の地震が発生した場合を想定。設定された具体的なシナリオをもとに初動体制を確認し、配備体制に分かれて予測される被害状況やリスク、優先業務の抽出を



行ないました。利用者さんや職員の安全確保はもちろんのこと、災害時にも介護サービスの提供を継続する

topics

リスマスは馴染みがなかったこと。年末に何をしていたかを聞くと「いつも餅つきをしていたなあ。近所で協力し合ってよく餅を作っていたわ。でも今はそんなこともしなくなったし寂し



〈滋賀〉 特養淡海荘 年末は餅つきでキマリ

例年であれば年末イベントとしてクリスマス会を行なっていました。が、昨年は12月26日に餅つきを企画しました。
理由は、利用者の皆さんにク



〈茨城〉 龍ヶ崎済生会病院 感謝！ クラファン達成

12月4日から1月31日まで、クラウドファンディングサイト「READYFOR」で産科病棟改修のための寄付募集に挑戦しました。
その結果、期間中に351人もの方々から総額15,117,000円のご支援をいただき、目標金額の1000万円を大きく上回ることができました。
今回の広報活動は、地域のさまざまな方の声を聞く機会にも



なりました。皆さまからの思いをしっかりと受け止め、安心して出産できる環境を維持するとともに、妊婦さんやご家族、さらには職員も快適に過ごせる空間になるよう病院一丸となって取り組んでいきます。
(済生記者 堀越琴美)

全国済生会 診療放射線技師長会

熊本で技師長会を初開催

1月27日、第76回済生会学会の中で全国済生会診療放射線技師長会が初めて開かれ、33人が参加しました。
会長を務める熊本病院の沖川隆志技師長の挨拶で始まり、働き方改革に向けたタスクシフト・シェアについての熱い議論が繰り広げられました。
さらに、組織間での共同研究や放射線部門DXの共有、人事交流についてなど、対面会議ならではの踏み込んだ

議論ができました。
(熊本病院 済生記者 東賢剛)



〈山形〉 特養愛日荘 つきたての牡丹餅に舌鼓

家族会から寄贈してもらった臼と杵を使い、1月9日、新春餅つき会を開きました。
1カ所に大人数が集まることを避けるため、3階、2階、1階と各ユニットを臼と杵を台車に乗せて回り楽しんでもらえるようにしました。
当日は阿部久施設長の挨拶に続き、餅つきのデモンストレーションを行ないました。それに続けと「どれ私やってみっかな!!」「大きい方の杵貸してける!!」と、張り切る利用者さんた



介護職員 明石沙也佳

いわ」という人が大半なのです。当日は、利用者さん11人、職員11人、ボランティア2人で臼を囲みました。皆さんとても大喜びで、参加者全員が杵を持つてお餅をつくことができました。好評につき、今後は毎年恒例の行事にしていこうと思います。ついたお餅で作ったぜんざいを皆でおいしくいただき、残りは鏡餅にしました。
(小規模多機能型居宅介護事業所 済生会なでしこ栗東 宮下達也)

ち。威勢のよい掛け声で「どっこしよー!!」と杵を振り下ろし、餅をついていきます。「ペターンペターン」と音が響いていました。
昼食には、ぬた(ずんだ)、ごま、納豆、きな粉などをまぶした牡丹餅が振る舞われ、全員でおいしくいただきました。
(済生記者 高橋 睦)

〈大阪〉 野江特養城東園 福笑いもボウリングも！ 新春ゲーム大会

1月30日、特養3階フロアで新春ゲーム大会を開催し、入居者さん43人が参加しました。「二月一日」を合唱した後、円になつてまずは福笑い。椅子や車椅子に座った状態でも参加しやすいよう、お手玉に顔のパ



ツを張り付けて投げてもらいました。2〜3人1組で「もうちょつと左やでー」「そこそこー」と作戦会議をしながら、楽しそうな表情で取り組んでいました。ボウリングでは「私がやるー!」と意気揚々と自ら手を挙げてくれる人も。職員も参加しましたが、入所者さんの方が上手でした。
皆で手をたたくて応援したり笑ったり、いつもとは違う表情や発言があり、とても良い時間を過ごすことができました。

〈大阪〉野江特養城東園
初釜に春を感じて



1月25日、利用者さん75人に職員5人が加わり、当園で初釜（年が明けて最初に行なわれる茶会）を開催しました。
職員が見様見真似でお点前をやっていると、「もう私がやってあげるわ、貸してみ！」と、昔取った杵柄で交代を迫る入所者さんも（笑）。自分で点てたお茶はとておいしく感じたそうです。
また、上生菓子の表面に描かれた椿を見て「さぶい日が続くから早く春が来たらいいのになあ」「これほんまにおいしいわ」と談笑する場面もありました。場の雰囲気と琴の音色で季節感も感じられ、皆さん楽しいひとときが過ごせたようです。
（係長 佃 一博）

〈山形〉特養愛日荘
一年の福を願って団子さし

1月16日、各ユニットの入居者さんと職員25人が集い、小正月の恒例行事「団子さし」を行いました。
大きなや形を考えながら数色



の小麦粘土をちぎり、丸めながら木の枝へと付け、飾りの小道具も全体のバランスを見て取り付けます。
作業中は職員と入居者さんが互いに声を掛け合い、相談しながら進めます。ときに笑いが起こるなど終始にぎやかに進んでいきました。
完成した団子木飾りを見上げては「上手くできたな」「ここにアレ付けたらにぎやかになんねがな」などと話す入居者さん。一緒に撮った写真は皆さんとても満足気な表情でした。
入居者さん同士が自身の考えを互いに伝えながら活動している様子がとても印象的でした。
（介護職員 原田和也）

初詣はふじの里神社で

〈兵庫〉特養ふじの里

1月8〜13日、ふじの里の手作り神社で、約85人の利用者さんが新年のお参りに参加しました。
鈴を鳴らし、賽銭箱へお賽銭を入れ、新年を祈願。利用者さんの大半が初詣には行っておらず、お参りできてよかったと手を合わせていました。
おみくじでは「大吉を引きうれしい、いいことがありそう!」と喜ぶ利用者さんも。
小吉でも大吉でも、皆さんにとって元気で楽しい1年になりますように。
（済生記者 山下芳樹）



〈山形〉特養愛日荘
お正月らしく獅子舞にかるた大会



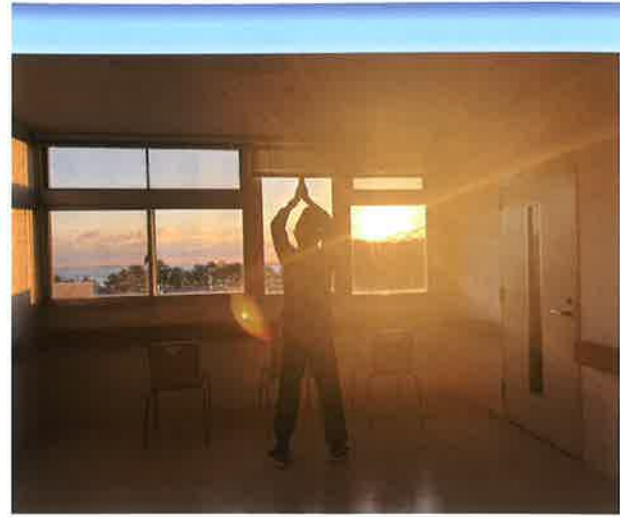
元日に、今年1年の無病息災を願う獅子舞を行いました。入居者の皆さんは、獅子舞が登場するとその迫力に「怖い」と驚きながらも笑顔を見せてくれました。そして獅子舞に頭や、自分が気になっている体の悪い所を囁んでもらい、「これで今年は無事だ」「これで頭良くなるな」など冗談も交えながら恒例行事を楽しんでいました。
同日、久しぶりにかかるた大会も行ないました。「難しいな〜

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください。

すてきな新年の幕開け

〈宮崎〉日向病院の林克裕院長と三樹修一葉局長は、毎年元日に当院屋



上から初日の出を一緒に眺めるのが恒例となっています。
今年は広報担当の私も参加。Instagram掲載用の、映える、初陽の写真を撮ることを企んで……。
天候が危ぶまれる中、厚い雲の層からのご来光に感謝と感動。普段は上がることのない屋上から眺める景観は、海岸から近い距離ともあって格別で、睡眠不足の私も目を見開いて堪能しました。
帰りがけに、ご来光を浴びながら体操をする入院患者さんに遭遇。何とも神々しく綺麗な光景で、思わずシャッターを切っていました。
後日、その人と話す機会があり、元日の朝を振り返りながら「すてきな新年の幕開けだった」と会話が弾

〈宮崎〉日向病院
書き初めに思いを込めて

1月24日、回復期リハビリテーション病棟のスタッフと患者さん約15人で「新春書き初め会」を開催しました。
「元気になりたい!」「病に勝ちたい!」。そんな強い気持ちや、新しい一年を迎えた喜びを綴るなどさまざま。患者さんそれぞれ思いを込めて自由に筆をとっていました。
「一期一会」と書いた宗石節子さんは「人と人との出会いの大切さ、尊さ。日向病院に入院して優しいスタッフに出会い、共に頑張る仲間に出会えたことは本当に宝。日々感謝している」と、書き初めに込めた心情を参



加者に伝えました。
（済生記者 村尾 愛）

〈宮崎〉日向病院 済生記者
村尾 愛

★この写真もすてきですが、インスタの初日の出、すごくカッコいいんですけど。絵ハガキやポスターにしてみては? (本部広報室 河内淳史)

くまモンからパワーチャージ!

1月28日に行なわれた第76回済生会学会。いつもはスタッフに発表を勧める立場の私ですが、今回は上司に背中を押してもらい、発表を決意。そこには「熊本開催であれば本物のくまモンに会えるのではないか?」という淡い期待も……(笑)。
初めての学会参加ということもあり緊張で数日間ドキドキしっぱなしでしたが、当日朝、会場に可愛いくまモンがいるのを発見! ハグしてもらい、ツーショット写真まで撮っ



私も自他ともに認めるくまモン好きですが、本物のくまモンは一段と可愛くお調子者でした。
（長崎病院 済生記者 平川幸子）
★知人の編集者がくまモンの料理本をつくっています(3月発売予定)。

ミトンみたいな手で調理、大丈夫なのかなあ。(本部広報室 山内 敦)

どんど焼きで無病息災を祈願

〔福岡〕飯塚嘉穂病院敷地内で1月17日、職員による「どんど焼き」を行いました。どんど焼きは、お正月にお迎えした年神様を見送り、五穀豊穡や無病息災を祈る行事です。約10人が参加し、敷地内の環境整備のため伐採した竹でやぐらを作成。迫康博院長が点火し、患者さんや職員、そのご家族の無病息災を祈りました。

当日の様子は、
当院インスタグラムに投稿しています



す。ご興味のある方はぜひご覧ください！

〔福岡〕飯塚嘉穂病院 済生記者
松岡亜希

★こちらのインスタも見ました！迫力ある炎の写真!! ところでナデシコマーク入りのはちまき、どこで買えますか? (本部広報室 河内淳史)

成人祝いに感謝!

1月9日、職場の皆さんに祝い善や記念品で成人のお祝いをしてもら



いました。

介護の知識が全くない私が(兵庫)特養ふじの里に入職したのは約2年前。環境がいろいろと変わり大変な日々ですが、成人して少しは大人になれたかなと思いつつ、毎日とても楽しく仕事をしています。

病院を目指します。

経験豊富な坂本さんが仲間に加わったことは心強く、これまでできなかった活動にもチャレンジしていきます。これからの当院地域医療連携室に、乞うご期待!

(福岡・太宰田病院)

地域医療連携室長 浦 正太

★原稿を読みながら、ついつい「坂本さん」の文字に反応してしまう私。大牟田の坂本さんも頑張ってます!

(メディカル・リーフ 坂本陽子)



得意分野を生かして

昨年12月に入職した総務課の高田華代主事が、オリジナルポップを作成してくれました。

きっかけは、脳神経外科からの依頼。「脊椎刺療法」のポスターをより



★入職早々の画力発揮!! クリエイター 石井 玲

(大分・日田病院 済生記者)

多くの患者さんに見てもらいたい」と、イラストが得意だと話す高田主事に声がかかりました。「どんな人にも伝わるように色合いや文言に気を配り、親しみを持ってもらえるイラストになるよう工夫しました」と高田主事。たくさん思いやりが込められています。ポップを見た方からは「ポスターだけの掲示より効果的」「つい見ちゃう」「中島慎治脳神経外科部長にそっくり」と大好評です。今後また依頼があれば、工夫を凝らして作成したいとのこと。

仲良しの入居者さんに成人したことを伝えると、「おめでとー」と笑顔に。ふじの里の職員として成人できたことを、心よりうれしく思います。

(兵庫・特養ふじの里 東館介護課 介護士 梅林永輝也)

★ご成人おめでとうございます。入居者さんや周りの人たちにお祝いの言葉をいただくのはうれしいですね。(大空出版 兼本美祈)

約束の振り袖姿

〔滋賀〕特養淡海荘の職員、西川希音さんが1月7日に成人式を迎え、新成人となりました。

振り袖姿を見せてほしい―利用者さんからのリクエストに応



えるため、西川さんは成人式を終えたその足で当施設へ。皆さんに振り袖姿を披露してくれました。

利用者さんからは「約束を守ってくれてありがとう」「かわいい」など多くの言葉がありました。

また、西川さん本人も「皆さんにおめでとーとお祝いしてもらい、うれしいです。利用者さんと撮った記念写真は一生の宝物です」と笑顔で話してくれました。

(滋賀・特養淡海荘 済生記者 野口景市)

★ご成人おめでとうございます! 振り袖が綺麗な色合いですね。西川さんに似合っています。

(本部広報室 杉山菜央)

新しい仲間とチャレンジ

2月1日、〔福岡〕大牟田病院地域医療連携室にMSWの坂本亮さんが新しく加わり、メンバーが6人となりました。

当院では地域包括ケア病棟の開設を今後予定しており、私たちはこれまで以上に重責ある職務を担うこととなります。決められた入院期間の中、退院する患者さんの不安を少しでも軽減し、より満足していただけるような支援に努めていきます。そしてこれまで以上に地域との連携を強化し、患者さんや地域に選ばれる

次号予告

済生 No.1138 [令和6年4月号]

済生会の不易流行論 (187) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 鈴木 福

口福にっぽん (79)

糸島カキ味噌 (福岡市)

てづくりおもちゃ いまいみさ

広告索引

日立システムズ
——表紙見返し [表紙 2]



「ズ」利用者が、カレンダーと一緒に撮った写真と「どうもありがとうございます」「またつくってください」といった



メッセージ、たくさん載っていました。「こちらこそ、すてきなプレゼントありがとうございます！」

(本部広報室 杉山菜央)

子どもメデイカルラリーに
ドナルド?

2月17〜18日に大阪・千里病院で行なわれた「子どもメデイカルラリー」取材しました(詳細は4月号の本誌でお伝えします)。

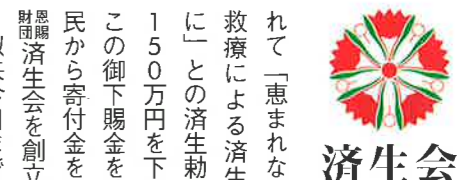
今回は済生会フェアとのコラボ企画で、ソーシャルインクルージョン

の根付いた社会の実現に向けたプログラムがありました。その一つが「ドナルド・マクドナルド・ハウス」。参加者は病院に入院している子どもやその家族を支援する活動をクイズで学びました。千里病院がある大阪府吹田市にもハウスがあります。ドナルドはラリー会場の千里南公園にも訪れ、ラリーをする子どもたちを応援していました。

(本部広報室 河内淳史)



お詫び 2月号ソーシャルインクルージョンで紹介した(茨城)常陸大宮済生会病院の「きずなBOX」を設置。フードバンク茨城へ食料支援の食料品数は147点の誤りでした。お詫びして訂正します。



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。

以来今日まで112年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救済」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

総裁	秋篠宮皇嗣殿下
会長	潮谷義子
理事長	炭谷 茂
本部	東京 支部 40都道府県
診療所	81
介護医療院	20
介護老人保健施設	28
介護施設	1
児童福祉施設	25
老人福祉施設	120
障害者福祉施設	9
看護師養成施設	7
訪問看護ステーション	64
地域包括支援センター	31
地域生活定着支援センター	5
その他	10
合計	403 (数字は令和4年度)

さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の60島の診療活動に携わっている。

職員数は全国で約6万4000人。

済生 [令和6年3月号]

THE NEWSLETTER of Social Welfare Organization Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和6年3月10日発行

通巻第1137号 (第100巻第3号)

編集兼 炭谷 茂

発行人 社会福祉法人 済生会

〒108-0073

東京都港区三田 1-4-28

三田国際ビルディング 21階

TEL: 03-3454-3311 (代)

FAX: 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋

東京都中央区八丁堀 4-4-1

©社会福祉法人 済生会

これまでの感謝と共に。
手動ベッドを電動ベッドへ!

目標金額 700万円 2024年 3月12日(火)10時から 4月30日(火)23時まで

済生会呉病院がクラウドファンディングに挑戦中!

ご高齢の方が多く呉地域だからこそ
電動ベッド全床導入を目指して!

※本プロジェクトはAll in 方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

1. WEBサイトからのご寄付の方

WEBサイトからご寄付いただける方は、下のQRコード、もしくは検索から、クレジットカード、コンビニ支払い*または銀行振込でご寄付ください。

済生会呉病院 レディーフォー

<https://readyfor.jp/projects/kure-2024>



2. 申込書を利用したご寄付の方

ウラ面の申込書にご記入の上、メールまたは郵送にてご提出ください。その上で、銀行口座にご寄付金をお振込ください。(お振込だけではご寄付を正常に受理できません。必ず申込書もご提出ください)

【お申し込み先】

済生会呉病院 総務課
〒737-0821
広島県呉市三條2丁目1番13号
電話: 0823-21-1601 (代表)
メール: jimus@saiseikai-kure.jp

【振込先】

金融機関: 広島銀行 (0169)
支店名: 呉支店 (064)
口座番号: 普通 3168131
口座名義: 社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 カナ:
フク) オンシサイダンサイセイカイジブ

近年高齢化は日本全体で進んでおりますが、呉病院のある地域は特に高齢化が進んでおり、患者様の平均年齢は81歳です。当院は地域の特性を理解しながら、寄り添い、ご高齢の患者様でも過ごしやすい病院を目指して医療の提供を続けております。

そして、現在病院として取り組みたいことは、手動ベッドから電動ベッドへの完全移行です。ご高齢の方にとって、誤嚥性肺炎や廃用症候群の予防のために、気軽にベッドで上体を起こすことができることは極めて重要です。

現在、院内の病床数は150床で、そのうち89床が電動ベッドで残り61床が手動式ベッドとなっております。

電動ベッドへの完全移行には病院だけの力ではどうしても資金面での限界があり、クラウドファンディングで資金を募ることを決断しました。

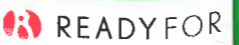
地域をつなぐ地域密着型病院として、患者様も、スタッフにとっても、快適な療養環境をつくるために、今回の挑戦に踏み出します。皆様からのあたたかいご寄付をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

*コンビニ支払いは、ファミリーマート、ローソン、ミニストップのみ利用可能です。寄付金額+システム利用料の合計金額が30万円未満のご寄付でご利用いただけます。



お問い合わせは済生会呉病院へお願いいたします。

EMAIL: jimus@saiseikai-kure.jp TEL: 0823-21-1601 (代表)





なでしこ
ファーム



熊本、松山から「冬の愛」をお届けします!



熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428



松山ワークステーション「なでしこ」
愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959

焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。
熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが outlet し、済生会のホームページ上で営業中です。
商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。
どうぞ一度、その思いも一緒に存しあってみてください。お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー(左上から時計回りにマープル、ゴマ、プレーン、クルミ)



♥ギフトボックス(クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ)



♣くまドレーズ(くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレーズ)



◆元祖クッキー(片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

済生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saisaikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力いっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。

